

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた
課題克服研究の報告（令和2（2020）～4（2022）年度）

自分の考えをもち、 表現する子をめざして

～国語科における「活用・表現力」の育成に向けた
指導方法の研究～



兵庫県マスコット はばタン

はじめに

（冊子作成の目的）

国語科において、全国学力・学習状況調査の結果から課題としてあげられたことは、“兵庫県の子ども達は自分の考えをもつことに課題がある”ということでした。そこで、課題を克服するために、令和2（2020）年度から3年間、研究テーマを設定して指導方法の研究を行いました。本冊子は、その成果をまとめたものです。

（冊子の構成）

冊子の構成は以下の通りです。

第1章	課題とされた調査問題の一例を掲載しています。
第2章	課題克服にむけた研究課題及び研究体制を示しています。
第3章	これら課題に対する3年間の研究の経過を紹介しています。
第4章	日々の授業実践に活用できるよう、“授業改善チーム教員”の協力のもと、実践事例を紹介しています。兵庫県の子どもの課題克服へのヒントが満載です。
第5章	本事業の“授業改善チーム教員”による公開授業時の指導案及びワークシートを掲載するとともに、その他国語科の学力向上に資する指導資料を紹介しています。

（まとめ及び今後の方針）

“兵庫県の子ども達は自分の考えをもつことに課題がある”これは、これまでの調査で常に課題として挙げられてきた内容です。裏を返せば、この課題を克服することが容易ではないことを示唆しており、新しい漢字を覚えたからできるといったシンプルなものではないと考えています。だからこそ、教員から敬遠されがちな部分でもあるかもしれません。

これまでの“授業改善チーム教員”による研究成果をもとに、県内の子ども達が課題としている現状を打開するため、学校全体でこの冊子を活用するとともに、課題の克服に向けた楽しく充実した授業を行っていただきたいと思います。そして、本冊子の活用が子ども達のつまづきを解消し、学力が向上する好循環を生み出す契機となることを期待します。

最後になりましたが、本書を作成するにあたり、ご指導を賜りました兵庫教育大学大学院 吉川芳則教授及び、研究実践を進めていただきました授業改善支援チーム教員・所属校の皆様に深く感謝を申し上げます。

令和5（2023）年3月

兵庫県教育委員会



目次

第1章 全国学力・学習状況調査から見られた課題	
(1) 象徴的な問題例（小学校）	1
(2) 象徴的な問題例（中学校）	3
(3) 象徴的な問題例から見られた課題	5
第2章 研究概要（研究課題の設定等）	6
第3章 研究経過	
(1) 1年目（令和2年度）	7
(2) 2年目（令和3年度）	7
(3) 3年目（令和4年度）	9
第4章 実践事例	
(1) 事例一覧	10
(2) 事例の見方	11
(3) 事例（小学校6例・中学校5例）	
～小学校～	
① 第2学年 「お手紙」（光村図書）	13
② 第4学年 「広告を読みくらべよう」（東京書籍）	15
③ 第4学年 「もしものときにそなえよう」（光村図書）	17
④ 第5学年 「注文の多い料理店」（東京書籍）	19
⑤ 第6学年 「『鳥獣戯画』を読む」（光村図書）	21
⑥ 第6学年 「海のいのち」（東京書籍/光村図書）	23
～中学校～	
① 第1学年 「方言と共通語」（三省堂）	25
② 第1学年 「根拠を示して説明しよう」（光村図書）	27
③ 第1学年 「玄関扉」（三省堂）	29
④ 第3学年 「初恋」・「レモン哀歌」（光村図書/三省堂）	31
⑤ 第3学年 「挨拶一原爆の写真によせて」（光村図書）	33
第5章 参考資料	
《指導案》	
Ⅰ 第3学年 「サーカスのライオン」	36
Ⅱ 第2学年 「お手紙」	42
Ⅲ 第4学年 「もしものときにそなえよう」	49
《コラム》	
Ⅳ 教科等横断的な視点を取り入れた取組の紹介	57

第1章 全国学力・学習状況調査から見られた課題

(1) 象徴的な問題例(小学校)

●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと【R1,1三】
[正答率：兵庫県26.3%、全国28.8%]

国語1 調べたことを報告する文章を書く(「公衆電話」)

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに
先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あったはずの公衆電話がなくなっていて、こまづましてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間になくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが「資料1」です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
多くの人が「けいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうか」を調べてみることにしました。

そこで、地いきの三十人調査の「たいしょう」として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが「資料2」です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか
公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や特ちょうがありました。

- ・警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができ、
 - ・停電のときでも、硬貨を使って通話することができ、
 - ・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。
- このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか
公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが「資料3」です。

3

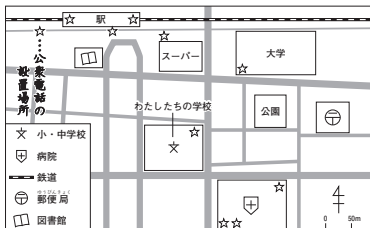
調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと考えました。今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に、いかにぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について、わかんしんをもってもらいたいと思います。

〈資料3〉

公衆電話の設置場所を示した地図



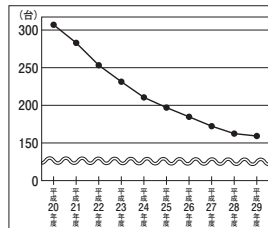
〈資料2〉

公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

〈資料1〉

公衆電話設置台数の移り変わり



1 高橋さんは、「報告する文章」で「資料2」と「資料3」を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
- 内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
- 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

〈資料2〉……

〈資料3〉……

※解答は、解答用紙に書きましょう。

二 高橋さんは、「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の中で、公衆電話の使い方や特ちょうについて、くふうして書いています。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 情報を整理して伝えるために、ことばを分けて並べて書いている。
- 自分の考えを強調するために、同じ言葉くり返して書いている。
- 自分の考えのもととなる事実を示すために、図や表を用いて書いている。
- 相手の理解を助けるために、使い方の手順に従って書いている。

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったわけではないと考えました。

なぜなら、

[illegible]

四 高橋さんは、【報告する文章】を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになっているところがあることに気がつき、書き直すことにしました。【報告する文章】の——部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましよう。

そこで、地いきの人三十人を調査の^アたいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

$\mathcal{P}$

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイカギらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

イ
(らず)

ウ

※解答は、解答用紙に書きましょう。

- (2) 高橋さんは読み手に伝わりやすくするために、「報告する文章」の の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字を書きましよう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

公衆電話を必要ときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

○
そこで、

※解答は、解答用紙に書きましょう。

(2) 象徴的な問題例(中学校)

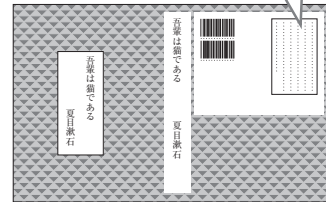
●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題【R3,3四】
[正答率：兵庫県16.6%、全国20.5%]

国語3 文学的な文章を読む(「吾輩は猫である」)

3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている【紹介】と、『文章の一部』です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

紹介

中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽そのもの。周囲の様子を観察し、極々に評論する。ユーモアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。



文章の一部

〔ここまでのあらすじ〕 苦沙弥先生の家で暮らすことになった猫の「吾輩」は、ある日、家の裏にある茶品で黒猫の「黒」と出会う。「黒」は大きな体格で、車屋(人力車を引く人)に飼われている乱暴猫である。それ以来、「吾輩」はたびたび「黒」に出くわすようになる。

ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶品の中で寝こびながら、いろいろ雑談をしていると、彼はいつもの自慢話をさも新しそくにくりかえしたあとで、吾輩に向かって「のごとく質問した。」
「おめえはいままでに鼠を何びきとったことがある。」
吾輩は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇氣にいたってはとうてい黒の比較にはならないと覚悟はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにきまりがよくはなかった。けれども事実も事実で、いつわらわけにはゆかないから、吾輩は、

「実はとうとうとうと思つて、まだとらない」と答えた。
黒は、彼の鼻の先からぴんとつばつていいる長いひげをびりびりとふるわせて、非常に笑つた。元來黒は自慢をするだけにとどか足らないところがあつて、彼の氣焰を感じたようにのどをころも鳴らして譁聴していれば、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づきになつてからすぐにこの呼吸をのみこんだから、この場合にも、なまじいおれを弁護してますます形勢を悪くするも愚である、いっそのこと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにごすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、

「君などは年が年であるから、だいふんとうたらう」と、そそのかしてみた。

果然彼は、塙壁の穴所に啞喊してきた。

「たんとおめえが、三、四十はとつたらう」とは、得意気なる彼の答えであつた。彼はなお語をつづけて、「鼠の百や二百は一人でいつでも引き受けるが、いたつてえやつは手に合わねえ。一度、いたちに向かつて、ひどい目にあつた。」
「へえ、なるほど」と、あいつちをうつ。

黒は大きな眼をばちつて、いう。

「去年の大掃除のときだ。うちの亭主が石灰の袋を持って縁の下へはいこんだら、おめえ、大きな、いたちの野郎がめんくらつて飛びだしたと思ひねえ。」
「ふん」と感心して見せる。

「いたちつてくても、なに、鼠のすこし大きいぐれえのものだ。こんちきしょうつて氣で追つかけて、とうとうどの中へ追いこんだと思ひねえ。」
「うまくやつたね」と喝采してやる。

「ところが、おめえ、いざつてえ段になると、やつめ最後つ尻をこきやつた。くせえのくさくねえのつて、それからつてえものはいたちを見たと胸が痛くならあ。」
彼はここにいたつて、あたかも去年の臭氣を今なお感ずることく、前足をあげて鼻の頭を二、三べんなでまわした。吾輩も少々氣のどくな感じがする。ちつと景氣をつけてやろうと思つて、

「しかし鼠なら、君にいらまされては百年目だらう。君はあまり鼠をとるのが名人で鼠ばかり食うものだから、そんなふとつて色つやがよいのだらう。」

黒の「ごげんをとるためのこの質問は、ふしぎにも反対の結果を呈出した。彼は啞然として大息を吐いていう。
「考へるとつたらねえ、いくら様で鼠をとつたつて——いってえ間ほどふてえつは世の中にいねえぜ。人のとつた鼠をみんな取りあげやつて、交番へ持つてゆきあがる。交番じや、だれがとつたかわからねえから、そのたんびに五錢ずつくれるじやねえか。うちの亭主なんか、おれのおかげでもう一円五十錢くらいもうけていやがなぐせに、ろくなものを食わせたこともありやしねえ。おい、人間でもあ体のいい泥棒だぜ。」

さすが無学の黒もこのくらしい理屈はわかとみえて、すこぶるおこつたようすで背中の毛を逆立てている。吾輩は少々氣味が悪くなったから、いいかげんにその場をこまかして、うちへ帰つた。

このときから吾輩は、けつして鼠をとるまいと決心した。しかし、黒の子分になつて鼠以外ののごそをあさつてあるくこともしなかった。ごそを食うよりも寝ていたほうが氣楽でいい。

(夏目漱石『吾輩は猫である』上)による)

(注1) 氣焰：熱い上がるような盛んな意氣。

(注2) 御しやすい：思ひ通りに扱いやすい。

(注3) お茶をにごすにしくはない：ごまかすのが能い。

(注4) 果然彼は、塙壁の穴所に啞喊してきた：ここでは、予想通り「黒」が語いに勢い込んで来た、ということ。

(注5) 啞然として大息して：ため息をついて嘆いて。

(注6) 交番へ持つてゆきあがる：當時は、公衆衛生上、鼠退治を奨励し、とつた鼠を交番で買い上げた。

一 ― 線部①「呼吸をのみこんだ」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 コツをつかんだ。
- 2 息を吸い込んだ。
- 3 ため息を抑えた。
- 4 発言を我慢した。

二 ― 線部A「喝采してやる」、線部B「とった」のそれぞれについて、「吾輩」の動作である場合は1、「黒」の動作である場合は2、「亭主」の動作である場合は3を選びなさい。

三 ― 線部②「反対の結果を呈出した」とありますが、このことは「黒」のどのような様子から分かりますか。「文章の一部」の中から探し、抜き出しなさい。

四 【紹介】に……線部「様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--	--

(3) 象徴的な問題例からみられた課題

① 象徴的な問題例（小学校）

【問題の概要】

生活の中で気になったことを調べ、報告するための文章を書く場面。

〈条件〉

- ①「2 調査の内容と結果」の(1)(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書くこと。
- ②【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- ③書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内で書くこと。

最も多かった誤答とは・・・

条件②、③を満たしているが、条件①の(1)(2)両方から分かったことを取り上げて書くことができていない。

※誤答の割合は兵庫県の結果

26. 5%

【正答例】公しゅう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。

② 象徴的な問題例（中学校）

【問題の概要】

『吾輩は猫である』（夏目漱石）の一部を読み、「吾輩」が「黒」をどのように評価しているか捉え、自分の考えを書く場面。

〈条件〉

- ①「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用すること。
- ②「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。
- ③「吾輩」の接し方について、自分の考えを書くこと。

最も多かった誤答とは・・・

条件②、③を満たしているが、条件①の「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用することができていない。

※誤答の割合は兵庫県の結果

46. 3%

【正答例】「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。

課 題

これらの問題に代表されるように、継続的に以下の課題が見られる。

- ・小学校 「目的や意図に応じ、必要な情報をもとに自分の考えをまとめること」
- ・中学校 「複数の資料の特徴や傾向を関連付け、考察し判断すること」

(1) 研究課題 ……これまでに見られた課題を踏まえて設定

「目的や意図に応じて複数の資料(情報)を用いて自分の考えを表現する力」

(以下、「活用・表現力」)の育成に向けた指導方法の研究

(2) 研究方法

★授業改善チームの立ち上げ

授業改善チームとは…

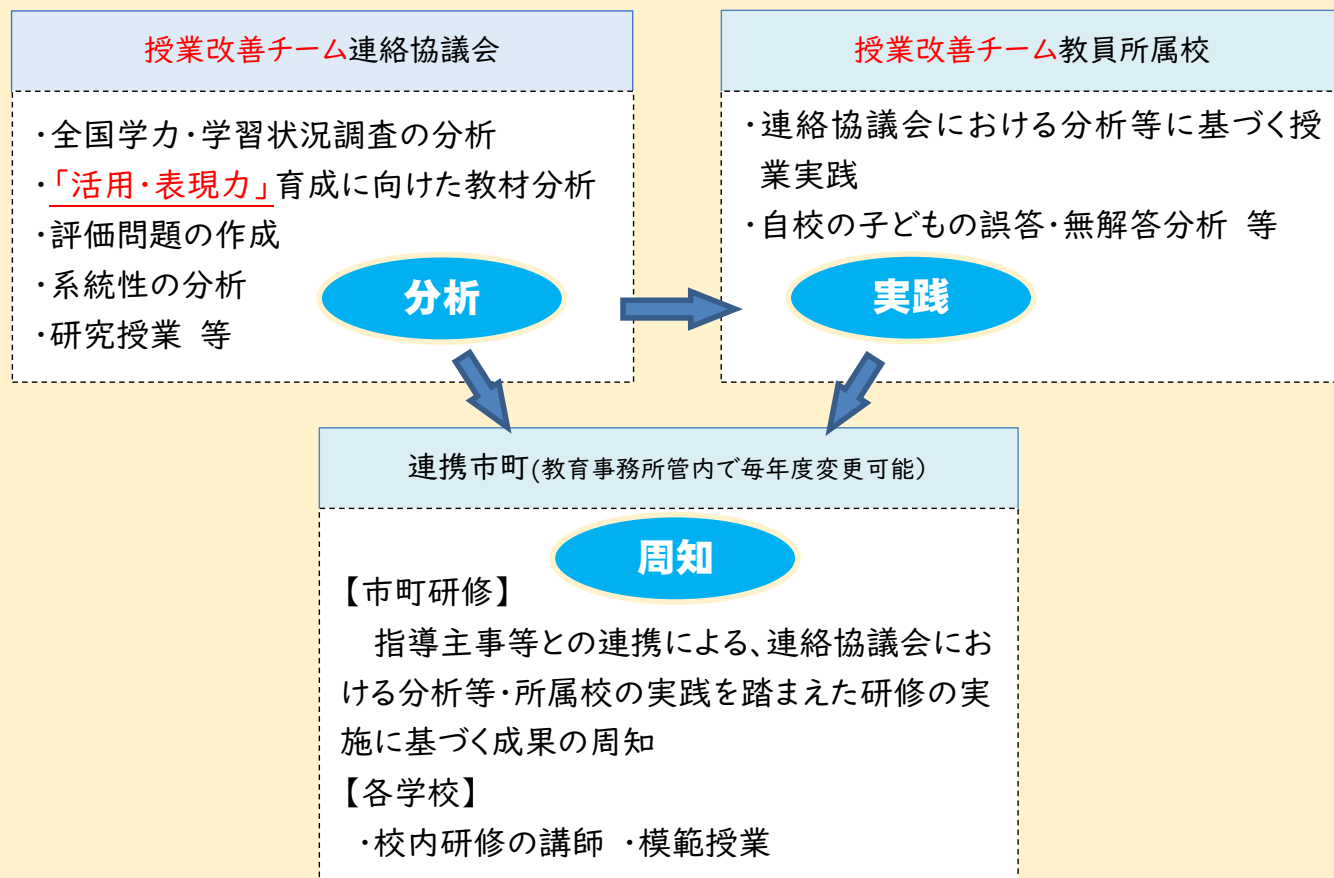
各教育事務所から推薦を受けた小・中各1人の教員で構成した本事業推進のための組織
※推薦基準

国語教育の指導力に優れており、市町においても研修講師や指導助言、模範授業等を行うことができる中堅教員

★3年間(令和2～4年度)の授業改善チームによる実践を通した研究

※研究の経過については、次ページ以降を参照

(3) 研究体制



第3章 研究経過

(1) 1年目(令和2年度)

小中別課題の整理

- ・小学校「目的や意図に応じ、必要な情報をもとに自分の考えをまとめること」
- ・中学校「複数の資料の特徴や傾向を関連付け、考察し判断すること」

成果① 小中共通して、「自分の考えをもつこと」とつまずきポイント「9つの観点」を取り入れることが重要

「活用・表現力」を高めるために、「自分の考えをもつこと」と「9つの観点」を踏まえた授業を計画し、実践する研究

小・中学校共通課題

自分の考えをもつこと

9つの観点

- a 目的と表現の関係をとらえること
- b 文や文章の構成・構造をとらえること
- c 文章の要旨・主題をとらえること
- d 目的や意図を意識して書くこと
- e 共通点や相違点を意識すること

- f 日常生活や社会生活と結び付けること
- g 語感や語彙を豊かにすること
- h 複数の条件を踏まえて書くこと
- i 文章からキーワードを見つけること

(2) 2年目(令和3年度)

9つの観点を取り入れた授業研究

- ・「自分の考えをもつこと」及び「9つの観点」を取り入れた授業研究

成果② ・「9つの観点」の内、特に観点 e.g.h を主に取り入れることが大事
・評価問題作成による授業評価を行うことが大事

3年目(令和4年度)に向けた研究課題の再設定

「目的や意図に応じて複数の資料(情報)を用いて自分の考えを表現する力」

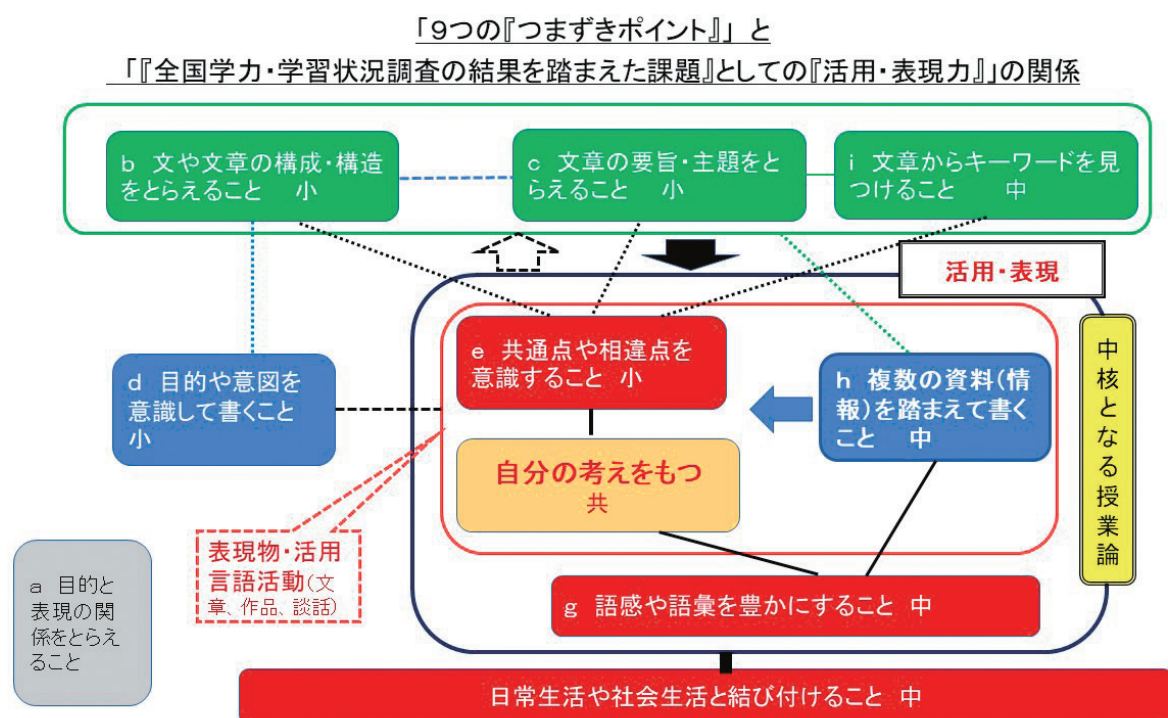
※研究を進める中で、特に小学校段階において“複数の情報”をもとに自分の考えをまとめる過程が大切であることが分かってきた。また、中学校段階においてもこのことは大切であることから、“複数の資料”に“複数の情報”も含めて広く捉え、両者をまとめた表現として、令和4年度から“複数の資料(情報)”という表記を用いることとした。合わせて、つまずきポイント「h 複数の条件を踏まえて書くこと」について、資料(情報)に“条件”の意味も含むこととし、「h 複数の資料(情報)を踏まえて書くこと」に更新する。

(3) 3年目(令和4年度)

観点の重点化と評価を取り入れた授業研究

- ・「自分の考えをもつこと」及び「観点 e. h. g」を取り入れた授業研究
- ・評価問題作成による授業評価

成果③ 「活用・表現力」の育成に向けた授業づくりの体系化



「研究課題」の捉え方

「研究課題」

目的や意図に応じて複数の資料(情報)を用いて自分の考えを表現する力

本研究プロジェクトキーワード	授業づくりのあり方		全国学力・学習状況調査 対応レベル	「つまずきポイント」対応レベル
	単元レベル	1単位時間レベル		
目的や意図に応じて	・何かをつくる(表現する)ために。 ・誰かに伝えるために。	・本時の学習課題を解決するために。 ・発問や指示に答えるために。 ※総じて、その時点での自分の考えをまとめるために。	*「次の条件に合わせて(次の条件1、条件2にしたがって)書きなさい」	d 目的や意図を意識して書くこと h 複数の条件を踏まえて書くこと
複数の資料(情報)を用いて	◎「資料」=教科書教材やそれ以外のテキストと捉えて。【引用】(教科書教材 + プラス・テキスト) ○加えて「資料」=「情報」とも捉えて、級友の意見も含めて位置付ける。 *【引用】の活用	◎「資料」=教科書教材やそれ以外のテキストと捉えて。(教科書教材 + プラス・テキスト) ◎加えて「資料」=「情報」とも捉えて、級友の意見、板書事項等も含めて位置付ける。 *【引用】の活用	*「資料」=多様な(形式、種類の)テキスト	e 共通点や相違点を意識すること
自分の考えを表現する	報告、説明、意見、記録、日記、手紙、物語・詩・短歌・俳句・随筆の創作、案内、批評などの形式で書いて(話して)表現する。	自分の考えを書きまとめる。(一定の条件の下で)	「あなたなら、どのように書きま	e 自分の考えをもつ g 語感や語彙を豊かにすること f 日常生活や社会生活と結び付けること

(兵庫教育大学大学院教授 吉川芳則氏 講義資料を基に作成)

第4章 実践事例

(1) 事例一覧

【小学校】					
学年	領域等	教材名	単元名	学校名	掲載頁
2年	・読むこと(物語文)	お手紙 (光村図書)	音読劇をしよう	小野市立 市場小学校	p13,14
4年	・書くこと ・読むこと(説明文)	広告を読みくらべよう (東京書籍)	自分の文房具で広 告をつくろう	三田市立 ゆりのき台小学校	p15,16
4年	・書くこと	もしものときにそなえよう (光村図書)	考えたことを書き、 読み合おう	豊岡市立 五荘小学校	p17,18
5年	・書くこと ・読むこと(物語文)	注文の多い料理店 (東京書籍)	作品のメッセージが 伝わる、音楽劇のテ ーマ曲を選ぼう	南あわじ市立 榎列小学校	p19,20
6年	・書くこと ・読むこと(説明文)	『鳥獣戯画』を読む (光村図書)	表現の工夫をとらえ て読み、それをいか して書こう	たつの市立 小宅小学校	p21,22
6年	・読むこと(物語文)	海のいのち (東京書籍/光村図書)	作者からのメッセー ジを本の帯にして伝 えよう	丹波篠山市立 岡野小学校	p23,24

【中学校】					
学年	領域等	教材名	単元名	学校名	掲載頁
1年	・書くこと	方言と共通語 (三省堂)	方言を使って短文を つくろう	宝塚市立 高司中学校	P25,26
1年	・書くこと	根拠を示して説明しよう (光村図書)	筋道を立てて 一 根拠を示して説 明しようー	小野市立 小野南中学校	P27,28
1年	・読むこと(説明文)	玄関扉 (三省堂)	論理的に考える	洲本市立 由良中学校	P29,30
3年	・読むこと(詩)	「初恋」・「レモン哀歌」 (光村図書/三省堂)	詩をリライトしよう	姫路市立 山陽中学校	P31,32
3年	・書くこと ・読むこと(詩)	挨拶一原爆の写真によ せて (光村図書)	詩の言葉を吟味し、 言葉から広がるイメ ージを形にしよう	新温泉町立 夢が丘中学校	P33,34

(2) 事例の見方

I

単元における、“自分の考えをもつ手立て”を5点(①～⑤)にまとめています。

- ①観点 e に関すること【観点 e: 共通点や相違点を意識すること】
- ②観点 h に関すること【観点 h: 複数の資料(情報)を踏まえて書くこと】
- ③観点 g に関すること【観点 g: 語感や語彙を豊かにすること】
- ④形成的な評価に関すること
- ⑤総括的な評価に関すること

三田市立ゆりのき台小学校の実践 (第3学年「サーカスのライオン」)
単元名「人物カード、変化マップでお話のいいところを伝えよう」

I



自分の
考えを
もつ
手立て

- 1 観点 e: 共通点や相違点を意識すること
友達のカードの内容や説明を踏まえて、再度カードの内容を考える
- 2 観点 h: 複数の資料(情報)を踏まえて書くこと
「変化マップ」を作成し、各場面の人物像をとらえやすくする
- 3 観点 g: 語感や語彙を豊かにすること
人物カードの交流により、情景や登場人物の気持ちを想像する
- 4 形成的な評価方法・観点
本文に記述された言葉を使って、人物像を書いている
- 5 総括的な評価方法・観点
変化マップの言葉を使って、話の面白さを伝えている

単元目標「中心人物の変化に着目し、お話の面白さを伝えることができる」

II

II

①で示した5つの
“自分の考えをもつ手
立て”を単元計画の中
に、位置付けています。

- ①観点 e
→「①比較」
- ②観点 h
→「②複数の資料(情報)」
- ③観点 g
→「③語感・語彙」
- ④形成的な評価規準や
方法
→「④形成的な評価」
- ⑤総括的な評価規準や
方法
→「⑤総括的な評価」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	・初発の感想と学習計画立案する。 ・気になる場面を交流する。	方法 変化カードの表紙の記述を評価する。 評(A) 場面と場面を比較して意味を述べている。 評(B) 場面に関して、記述を基に意味を述べている。 評(C) 場面に関して、意味を述べている。
二	・設定場面について交流し、人物カードを修正する。	評(B) 『『○○』ということは』という考え方で行間を読んでいる。 例: 風のように⇒のそり(動き) 例: お父さんやお母さんや兄さんたち⇒じんざ(人間関係)
	1 比較	
	3 語感・語彙	
	・展開・山場・結末場面の人物カードを交流する。 ・変化マップに位置付け、変化マップを交流する。	方法 自分の環境外の人から必要とされたことの意味について記述させる。 評(B) 失われたもの「若さ」「場所」を取り戻したことを記述している。 例: 男の子の境遇=自分の境遇 例: 男の子のやさしさ=自分への励まし
	2 複数の資料(情報)	
		【ふり返りに期待する言葉の例】 ・アフリカ・家族(父・母・兄たち)
三	変化マップを交流し、自分の考えをまとめる。	評(B) 変化マップにまとめた複数の人物カードから言葉や文字を使って、話の面白さを伝えている。

5

総括的な評価

Ⅲ

⑩で示した場所における、5つの具体的な手立てを示しています。
方法や大事なポイントを見出し文で示しています。

1

比較

主に、資料(2つの教材や1つの教材の2つの場面など)や情報(友だちの意見、過去の自分の考えなど)の共通点や相違点を意識することで、自分の考えをもったり深めたりしていくことにつながる場面を示しています。視点を明確にして比較させることが重要です。

2

複数の資料(情報)

主に、共通点や相違点から自分の考えを形成したり深めたりしていくための材料となる複数の資料や情報を得る場面を示しています。授業者は、ねらいに沿った資料(情報)を複数準備します。

1

比較

友だちのカードの内容や説明を踏まえて、再度カードの内容を考える

指導のポイント

- ・カードを修正したり作成したりする振り返りの時間を確保する。
- ・交流での気付きと授業後に増やしたいカードについて書く。

左のような表面的な読みのカードも認め作成する。一人一人が感じた読後感を可視化することを大事にし、情報として明確に整理させる。

表面的なカードからの質的転換

Ⅲ

3

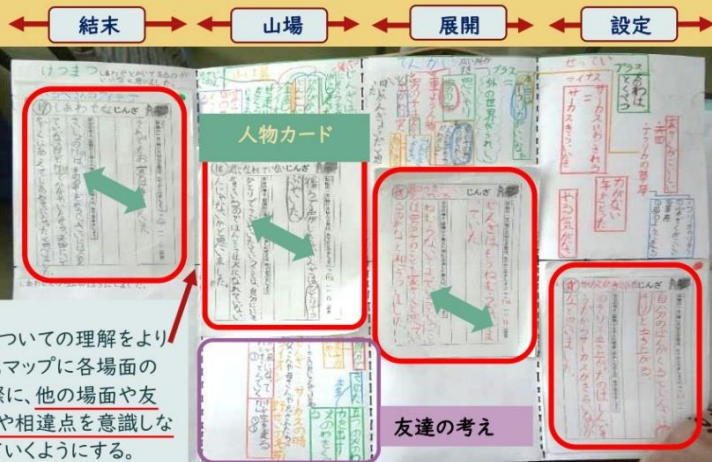
語感・語彙

単元の中で、特に語彙力を高めたり語感を豊かにしたりすることができる場面とその方法を示しています。

2

複数の資料(情報)

「変化マップ」を作成し、各場面の人物像をとらえやすくする



指導のポイント

中心人物の心情についての理解をより深めるために、変化マップに各場面の人物カードを貼る際に、他の場面や友達の考えの共通点や相違点を意識しながら比較して考えていくようにする。

3

語感・語彙

人物カードの交流により、情景や登場人物の気持ちを想像する

- 例:「老い」「一日中ねている」に表される様子について想像する。
例:「風のように」に表される様子について想像する。
例:「夢」に表される様子について想像する。

4

形成的な評価

本文に記述された言葉を使って、人物像を書いている

評(B) 場面と場面を比較して意味を述べている。

5

総括的な評価

変化マップの言葉を使って、話の面白さを伝えている

総括的な言語活動(活用):

- 場面毎に作成してきた人物カード4枚(複数の情報)を活用してまとめのカードをつくる。
- 内容面:変化マップの変化を振り返って面白く考えた内容を見つけること。
- 条件面:・カードに記した言葉を必ず使うこと。
- ・2つの情報をつなげること。

4

形成的な評価

主に単元の途中段階において、子ども達が、“自分の考えをもつ経験が上手くてきているか”評価する規準と方法について示しています。指導者は結果から指導方法の軌道修正をすることもできます。

5

総括的な評価

主に単元の終末において、子ども達が“自分の考えをもつことができているか”評価する規準と方法について示しています。

【小学校】

小野市立市場小学校の実践
単元名「音読劇をしよう」

(第2学年「お手紙」)



自分の
考えを
もつ
手立て

1

観点 e：共通点や相違点を意識すること

1場面と4場面の挿絵や叙述を比較し、登場人物の様子や心情の変化を読み取る

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと

交流して読み深めた複数の内容（情報）から、自分の考えを台本カードに書く

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること

音読劇で表現したい会話文や言葉について、音読や動作化をして豊かに想像する

4

形成的な評価方法・観点

音読劇で表現したい登場人物の様子や心情を台本カードに書いている

5

総括的な評価方法・観点

台本カードを使って音読劇を完成させている

単元目標「登場人物の様子や心情に着目し、音読劇を行うことができる」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	- 音読をしながら、本文の大きな内容を捉え、学習の見通しをもつ。 - 場面ごとにあらすじをまとめる。	○音読 方法 語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読する。 ○あらすじシート 評(A) 場面の様子や登場人物の行動などを捉えてまとめている。 評(B) 場面のできごとを捉えて、まとめている。 評(C) 場面の順序を捉えている。
二	音読劇で表現したい会話文や叙述を選び、想像したことを交流する。 1 比較 3 語感・語彙 2 複数の資料(情報)	○台本カード 評(A) 場面の变化に着目し、登場人物の様子や心情を想像している。 評(B) 会話文や叙述を根拠に登場人物の様子や心情を想像している。 評(C) 音読劇で表現したい会話文や叙述を選んでいる。 評(B) 1場面と4場面の叙述や挿絵を比較することで、登場人物の様子や心情の共通点、相違点を見つけている。 評(B) 文末や言葉に着目し、音読や動作化をしたり、反復に気づいたりして、想像している。 評(B) 交流して読み深めた複数の内容から、自分が音読劇で表現したい登場人物の様子や心情を台本カードに書いている。
三	自分のお気に入りの場面を選び、音読劇を完成させ、交流する。	評(B) 書き溜めた複数の台本カードから自分が表現したいものを選択し、音読劇にいかしている。 評(B) 表現を交流し、さらに想像したことをまとめている。

1 比較

1 場面と4 場面の叙述や挿絵を比較し、登場人物の様子や心情の変化を読み取る

第1 場面の挿絵

第4 場面の挿絵

・4場面を交流する際、1 場面の学習の足跡を残し、似た場面があったことに気付かせる。



指導のポイント

・共通点・相違点を出し合い、登場人物の行動は反復しているが、心情は違うことや、対比することで幸せな気持ちがさらに深まることに気付かせる。

場面のつながりを意識した深い読み

2 複数の資料(情報)

交流して読み深めた複数の内容(情報)から、自分の考えを台本カードに書く

第1 場面の挿絵

第4 場面の挿絵

・構造的な板書



「かえるくん」を上段、「がまくん」を下段にまとめることで情報を整理し、だれについての内容を読み深めたのかを把握できるようにする。

・ワークシート(台本カード)

一人学びと交流後のワークシート(台本カード)を同じ形式にすることで、考えの深まりや広がりをつねることができる。また、書き溜めたワークシートが複数の情報となり、三次の言語活動が充実する。

一人学び

振り返り

3 語感・語彙

音読劇で表現したい会話文や言葉について、音読や動作化をして豊かに想像する

・「親友」と「友達」を比べ読みしたり、「親友」が2 回繰り返されている効果について考えたりすることで、手紙の内容を読み深める。

・叙述や場面の音読や動作化を行うことで、登場人物の様子や心情を読み深める。



4 形成的な評価

音読劇で表現したい登場人物の様子や心情を台本カードに書いている

・交流後に新たに気付いたり読みを深めたりしたことを台本カードにまとめる。

・【評(B)】 場面ごとの登場人物の様子や心情を叙述を根拠にして想像することができる。

・【支援】 板書の色分けされた叙述と深めた内容から、賛成意見を見つけさせる。



5 総括的な評価

台本カードを使って音読劇を完成させている

総括的な言語活動(活用): 台本カードを活用して音読劇を完成させ、表現を交流する。

内容面: 最も想像を広げた場面の台本カードを活用すること。

条件面: 二次で書き溜めた複数の台本カードから選択すること。



三田市立ゆりのき台小学校の実践 (第4学年「広告を読みくらべよう」)
単元名「自分の文房具で広告をつくろう」



自分の
考えを
もつ
手立て

1

観点 e：共通点や相違点を意識すること
2つの広告を読み比べて、作り手の意図を捉える

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
作成した広告を交流し、互いに評価する

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること
広告のプレ交流を行うことで、より適切な言葉を選ぼうとする

4

形成的な評価方法・観点
読み手に伝わる表現を使って、広告の良さを書いている

5

総括的な評価方法・観点
広告のレイアウトに沿って、文房具の良さを伝えている

単元目標「文房具の良さを、3つの視点で作成し、伝えることができる」

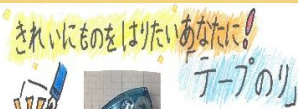
単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法								
一	・単元計画を立案する。 ・言語活動例（広告）を提示する。 ・キャッチコピー、相手意識とは何かについて学ぶ。	方法 三次で作成する広告の例を示し、書かれている事柄を確かめる。 評(B) 広告には、主に3つの事柄が示されていることを理解している。 「キャッチコピー」「明確な相手意識(写真・絵)」 「文房具の良さを3点取り上げて説明(特長)」								
二	・例示されている広告を読み解いて、記述するポイントを学ぶ。 1 比較 3 語感・語彙 2 複数の資料(情報)	方法 教材で示されている2つの広告を「キャッチコピー」「写真」「特長」の3つの視点で比較する。 4 形成的な評価 評(B) 3つの視点で比較している。 <table><tr><th>3つの視点</th><th>比較した内容</th></tr><tr><td>キャッチコピー</td><td>「家族の健康チェック」と「子どもの急な発熱」</td></tr><tr><td>写真</td><td>「家族全員」と「親子」</td></tr><tr><td>特長</td><td>キャッチコピーの違いに合わせて、特長について書かれている事柄の順序が変わる。※</td></tr></table> ※「家族の健康チェック」→「どなたにも使いやすい」 「音と光の両方でお知らせ」「わずか15秒」「いつでも清けつ」 「急な発熱」→「すばやくはかれる」 「わずか15秒」「いつでも清けつ」「音と光の両方でお知らせ」	3つの視点	比較した内容	キャッチコピー	「家族の健康チェック」と「子どもの急な発熱」	写真	「家族全員」と「親子」	特長	キャッチコピーの違いに合わせて、特長について書かれている事柄の順序が変わる。※
3つの視点	比較した内容									
キャッチコピー	「家族の健康チェック」と「子どもの急な発熱」									
写真	「家族全員」と「親子」									
特長	キャッチコピーの違いに合わせて、特長について書かれている事柄の順序が変わる。※									
三	自分で選んだ文房具について、観点を明確に広告を作成する。	評(B) 「キャッチコピー」「写真」「特長(3点)」で広告を作成し、伝えている。 5 総括的な評価								

1

比較

2つの広告を読み比べて、作り手の意図を捉える



- ・「言葉」「写真」「特長」の3点で比較する。
- ・自分が作成する広告に必要な事象をノートに書き溜める。

指導のポイント

- ・上のような広告の構成要素が書けるように、毎時間ノートに気付きを書き記していく。
- ・授業中も「広告に入れる内容は見つかった」とこまめに確認し、「書き手」(発信者)としての意識を高める。

「書き手」(発信者)としての意識の向上

2

複数の資料(情報)

作成した広告を交流し、互いに評価する

指導のポイント



- ・紹介する文房具の良さと良さが伝わる表現を整理させておく。
- ・友だちの広告の良さを見つけ、自分の広告作りにいかしていく。

キャッチコピーで端的に「良さ」を伝えます。

180度でカチッとこてい

ガバッと開く「こていくん」

キャッチコピーのキーワードは活用します。

キーワードが際立つ写真を意図的に撮影します。

写真をそろえて広告にレイアウトすることで見やすさを検討しました。

見出しと内容で読みやすさを考えました。

180度にガバッと開く

授業中でも空っぽで、取り出しやすいです。

じしゃく付きだから色鉛筆ケースもくっつく

くっついたら落ちないので、ダブルのもち運びにいいです。

半透明で中身が見える

半透明なので、外から簡単に中身が確認できます。

3

語感・語彙

広告のプレ交流を行うことで、より適切な言葉を選ぼうとする

- 例: 具体的数値を入れることで、実物の大きさや動きのイメージを伝える。
- 例: 「カチッと」のようなオノマトペを使うことで使い勝手のイメージを伝える。



4

形成的な評価

読み手に伝わる表現を使って、広告の良さを書いている

評(B) 複数の表現技法(数値やオノマトペ等)を意識して使って書いている。



5

総括的な評価

広告のレイアウトに沿って、文房具の良さを伝えている

総括的な言語活動(活用): 授業毎に書き留めた広告の良さを伝えるために必要な事柄をいかして、文房具の広告を作成する。

内容面: 相手にイメージを伝える表現を工夫すること。

条件面: プレ交流で修正確認した表現技法を複数用いて、広告を作成すること。



豊岡市立五荘小学校の実践 (第4学年「もしものときにそなえよう」)
単元名「考えたことを書き、読み合おう。」



自分の
考えを
もつ
手立て

1

観点 e：共通点や相違点を意識すること
思考のずれを生み出す発問によって、比較の思考を促す

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
防災マップと関連付けて、説得性の高い文章を書く

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること
多様な資料を提示し、防災に関する語彙を増やす

4

形成的な評価方法・観点
必要な情報を基にして、災害のそなえを書き表している

5

総括的な評価方法・観点
複数の情報を関連付けて、災害のそなえを書き表している

単元目標「自分の考えとそれを支える理由（事例）や根拠との関係を明確にして、書き表すことができる」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	全校生（五荘地区の人たち）の命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめる。 1 比較	評(B) 全校生（五荘地区の人たち）の命を守るために、必要な情報を基に、考えとそれを支える理由や根拠の関係を明確にして、大雨のそなえを書き表している。 4 形成的な評価 評(B) 引用について以下の3点を理解している。 AとBの比較…【条件につながる根拠を引用】 BとCの比較…【考えや理由につながる根拠を引用】 BとDの比較…【目的につながる根拠を引用】
二	調べた内容を分類・整理して、自分の伝えたいことを明確にする。 2 複数の資料(情報) 3 語感・語彙	評(B) 調べた複数の情報を比較し、目的（主張点）に一番ふさわしい考えを決めることができる。 例：自分の地区は高齢者が多く、避難に時間がかかる。 →高齢者は早めに避難することが大切だ（考え）。 →高齢者の避難に特化した情報を調べる。 評(B) 目的に必要な情報を手に入れる過程で、防災に関する語彙を増やしている。 例：浸水、土砂災害、高齢者等避難、避難場所、避難所 等
三	文章を内容と条件の視点で相互評価し、自分の文章のよいところを書く。	評(B) 自分の設定した目的に応じて、メモ・生活経験・防災マップ等を関連付け、考えとそれを支える理由（事例）や根拠との関係を明確にして、自分が選んだテーマのそなえをリーフレットにまとめている。 5 総括的な評価

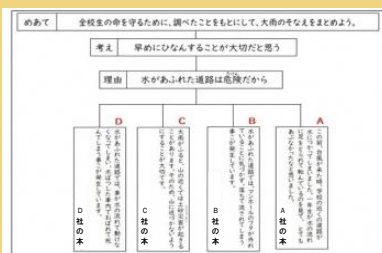
1

比較

思考のずれを生み出す発問によって、比較の思考を促す

教科書 p108, p109 上段の北山さんの文章について、2段落目の2文目と3文目を隠して[A]とする。

教科書の作例の一部を隠して思考を促し、自分の考えを表現する力を高める。



指導のポイント



隠した部分に入る内容を選択肢にして思考のずれを生み出し、対話を通して、学ばせたい観定の定着を図る。
発問「[A] (作例の隠した部分) 書くなら、ABC Dのどれが一番ふさわしいか」

学ばせたい観定の意識付け

2

複数の資料(情報)

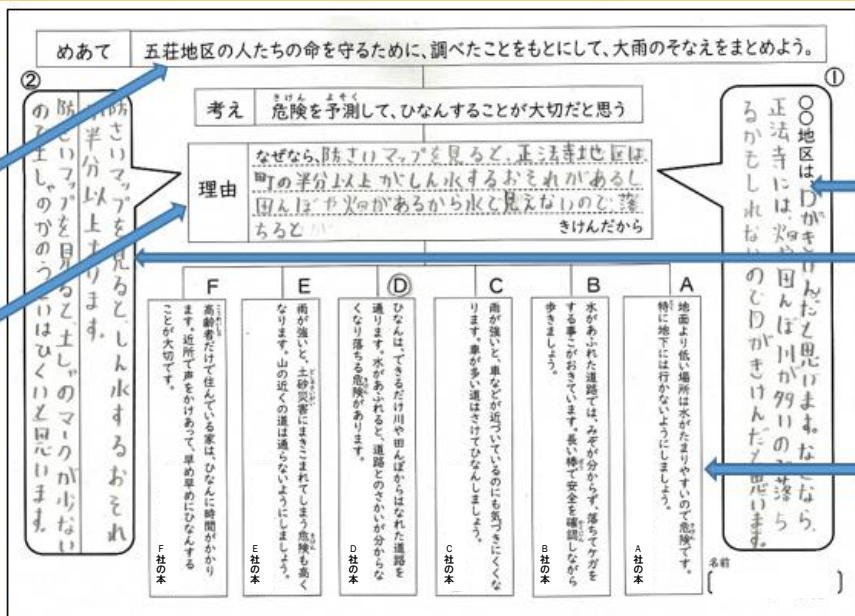
防災マップと関連付けて、説得性の高い文章を書く



[ワークシート2]

目的として地区を
意識させ、日常生
活や社会生活と結
び付けて思考でき
るようにする。

複数の資料を関連付け
て、自分の考えをもつこ
とができたか評価でき
るようなワークシート
にする。



根拠を二つ以上取り入
れて、書くよう条件設
定する。

複数の情報を提示し、
目的に応じた情報を
適切に引用できる力
を育てる。

3

語感・語彙

多様な資料を提示し、リーフレット作成に必要な言葉を増やす

- ・日常生活や社会生活と結び付けた目的を設定することで、必要な情報を手に入れるために、主体的に難語句の意味を辞書で調べようとする意識を高め、防災に関する語彙を増やす。
- ・科学的な資料(防災マップ、気象データ等)を提示し、幅広い分野の語彙力を育む。



4

形成的な評価

必要な情報を基にして、災害のそなえを書き表している

評(B) 五荘地区の人たちの命を守るために、必要な情報を基に、考えとそれを支える理由や根拠の関係を明確にして、大雨のそなえを書き表している。



5

総括的な評価

複数の情報を関連付けて、災害のそなえを書き表している

総括的な言語活動(活用):リーフレットを内容と条件の視点で相互評価し、自分の文章のよいところを書く。
内容面:自分の設定した目的に応じた説得性の高い文章を書くこと。

考えとそれを支える理由(事例)や根拠との関係を明確にした正しい文章を書くこと。

条件面:複数の情報を関連付けて書くこと。





1

観点 e：共通点や相違点を意識すること

言動や様子から前後の人物像を比較し、変容を捉える

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと

作品や伝記などの情報を踏まえて、曲の選択理由が書ける

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること

※二義性=二通りの意味にとれる言葉

擬声語・擬態語や二義性のある文のおもしろさに触れる

4

形成的な評価方法・観点

物語全体の変化を見つけ、主題についての考えをまとめている

5

総括的な評価方法・観点

二つの主題（情報）を踏まえて、テーマ曲に選んだ理由を書いている

自分の
考えを
もつ
手立て

単元目標「二つの主題を踏まえて、テーマ曲に選んだ理由を書くことができる」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	学習のねらいや単元のゴールを把握し捉え、学習の見通しをもつ。	方法 宮沢賢治関連作品多読表の冊数と一言感想記述を評価する。 評(B) 積極的に作者にかかわる書物を読もうとしている。 評(B) 「言葉の力」の内容をつかみ、表現の工夫に目を向け、読み進めようとしている。
二	物語をおもしろくしている要素（構成・表現・仕掛け・主題）を探す。 1 比較 3 語感・語彙	評(B) 戸に書かれた語句や文に含まれた二義性のおもしろさに気づき、語彙を豊かにしている。 方法 物語の始まりと終わりの人物像を比較表で評価する。 評(B) 二人の紳士の言動や様子に着目し、人物像を想像している。 評(B) 物語の始まりと終わりを比較しながら、全体像を想像している。 方法 テーマ曲選びシートの主題欄記述を評価する。 評(B) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考え（作品の主題）を書いている。 4 形成的な評価 評(B) 物語全体の変化を見つけ、主題についてまとめられる。
三	宮沢賢治の他作品の主題を捉え、共通点を見出し、テーマ曲を選ぶ。 2 複数の資料(情報)	方法 曲選びシートの作者メッセージと曲の選択理由記述を評価する。 評(B) 「書くこと」において、テーマ曲選択理由に納得してもらえるよう、作者が語りかけてくれたことと二つの主題を関連付けて、自分の考えを書くことができる。 5 総括的な評価 評(B) 二つの主題を踏まえて、テーマ曲選択の理由を書くことができる。 方法 「主題共感シート」と「自分と違うけれどいいねシート」で評価する。 評(B) 同じ物語から多様なメッセージの受け取り方があることに気付くとともに、自分や友だちのよさを感じようとしている。

1

比較

言動や様子から前後の人物像を比較し、変容を捉える

- ・「不思議な世界」の前と後の言動や様子の叙述に線を引く。
- ・前後の人物像を表で比較し、共通点と相違点を捉える。

前	不思議な世界 動物や自然を イギリスの森の ごうまんて自己 命の大切を分か 人のことを切 自分の考えし おまを基準に	紳士のくらし 不思議な世界
	不思議な世界 動物や自然を イギリスの森の ごうまんて自己 命の大切を分か 人のことを切 自分の考えし おまを基準に	紳士のくらし 不思議な世界

指導のポイント



付箋に書き出した人物像を、表組みを使って比較することにより、変容なし(共通点)と変容あり(相違点)を視覚的に理解できるようにする。

共通点や相違点を視覚的に捉える

2

複数の資料(情報)

作品や伝記などの情報を踏まえて、曲の選択理由が書ける



- ・単元はじめに、単元のゴールである右のシートを示し、説明する。また子どもの質問や要望を受けて、このシート自体を修正する。
- ・ABCDの順に、一つの学習活動とともに一枠ずつ書き進めていく。このことにより、常に関連付け方を考えて、次の学習活動を行える。改訂により読みの深まりが見える。

読み取ったことを基に、テーマ曲を選ぼう 名前

D 音楽劇『注文の多い料理店』で、最後に歌いたいテーマ曲はこれだ！ ① おそすぎないうちに ② We are the one

ららを選んだ理由、なぜなら歌詞の「なくしてしまってから」と「管段あまりに身近すぎて」これは、ハンターがいつも自然が身近にあってなんとも思わず、なくしてしまっから悲しんだりして運送する。これと一致しています。そして「今ある全てのものが神秘的にあるとしたら」ハンターはどうやってこれを守るかという意味とも一致しています。そして、自然についても、「無くしてしまっからその温かさに気づいて悲しんだりして運送する」これも一致しています。だから、僕は、テーマ曲に「おそすぎないうちに」を選びました。

作品や伝記などから、時代をこえて宮沢賢治さんがわたしに語りかけてくれたこと

C 自分の命、そしてどんな小さなものの命でも、同じ命なのだから大切にしないとけない

そのように感じた理由は、他作品でも、今回の「注文の多い料理店」でも深く読んでいくと命の尊さ、大切にしているからです。そして、図書館で借りた宮沢賢治さんの伝記には、決して何かを傷つけるのではなく何かを守り続ける宮沢賢治さんの生き方が書いてあったからです。

教科書『注文の多い料理店』からわたしに受け取ったメッセージ

A 人は、決して自己中心的にならず他者のことも考え、いろんなものと寄り添いあって生きるべきである。

これに受け取った理由は、まず紳士が、クリームをこそそ食るところから紳士の考え方が良くはないことが分かります。そして、自分の犬が死んだにお金のことばかり気にしたりp.118四行目の「なんでも構わないから、早くタンターンと、やってみようんだなあ。」と自分中心で自分が楽しければ良い、自分お金の方を心配したり完全に自己中心的だと分かります。だから、人は、決して自己中心のなっていない。そして、p.132の後ろから二行目紙くすのようになった顔が戻らなかったのは、命をかるくあつたことを鏡を見た時や他の人が自分の顔を見て笑った時思い出させてもうさせないようにするために考えました。だから、他者のことも考えいろんなものと生きるべきなのです。

音楽劇の台本『注文の多い料理店』からわたしに受け取ったメッセージ

B 人は、命の尊さを知り何かを傷つせず、何かを守りいろんなものと寄り添い合って生きなければならない。

僕がこれを主題にした根拠は、まず山わらしの「山荒らし。ない。」のセリフからハンターは山荒らしだと分かります。そして、文字からも山荒らしは山を荒らしていることが分かります。つまり何かを傷つけていることが分かります。もちろんいけないことなのでいいことはありません。そして、山猫は「ハンターたちを懲らしめる」と「もりわらしたちを守る」、この二つの意味で山猫軒を聞いています。この何かを守る行動は、ハンターへのお手本なのではないでしょうか？だから、台本の主題はこれにしました。

3

語感・語彙

擬声語・擬態語や二義性のある文のおもしろさにふれる

- ・擬声語・擬態語に関しては、よくある表現と比較して、作者の独自性にふれる。
- ・紳士が料理される側だと気付かなかったしかけである二義性のある文や語句(例:「おなか」→①部屋の中②腹)を解説することで、同音異義語のおもしろさにふれる。



4

形成的な評価

物語全体の変化を見つけ、主題についての考えをまとめている

評(A) 物語全体の変化を踏まえ、ものの見方・考え方を抽象化した言葉でまとめている。

評(B) 物語全体から人物像の変容を踏まえ、主題についての考えをまとめている。

【支援】文型(「人は、…な場面では、～考えるべきである。」)を与える。



5

総括的な評価

二つの主題を踏まえて、テーマ曲に選んだ理由を書いている

総括的な言語活動(活用):学習活動毎に蓄積してきた主題の吟味を図り、改訂したテーマ曲選択理由シートを書く。

内容面:二つの主題の共通点を見出すこと。

条件面:二つの主題の共通点と、歌詞や曲調とつないで、理由に書くこと。



たつの市立小宅小学校の実践 (第6学年「『鳥獣戯画』を読む」)
単元名「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」



自分の
考えを
もつ
手立て

1

観点 e：共通点や相違点を意識すること

筆者の読みと自分の読みを比較し、それぞれの感じ方や考え方の読みを深めていく

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと

パンフレットに記載する情報を取捨選択し、読み手に伝わりやすい文章を書く

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること

読み手を引き付けるための書き方の工夫や絵巻物のよさを表す言葉を知る

4

形成的な評価方法・観点

筆者の見方と自分の見方と比べたり、筆者の見方について自分の考えをまとめたりしている

5

総括的な評価方法・観点

読み手を引き付ける表現でパンフレットを作っている

単元目標「表現の工夫をとらえて読み、その表現をいかして書くことができる」

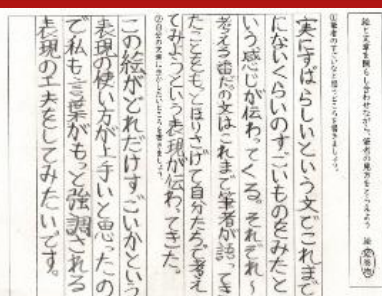
単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	- 学習計画を立案する。 - 良さを伝える表現や構成の工夫を読み取る。 3 語感・語彙 - 筆者のものの見方と自分の見方を比較し、自分の考えをまとめる。 1 比較 - 自分の選んだ絵巻物のよさを伝える文章を書く。	4 形成的な評価 方法 良さを伝える表現をワークシートに記入する。 評(B) 絵と表現を結び付けて読み取っている。 評(B) 文章と図表などを結び付けている。 方法 筆者の読みと自分の読みを比べる。 評(A) 筆者の読みに対する自分の考えを書いている。 評(B) 筆者の読みと自分の読みを比較している。 評(C) 自分の読みを書いている。 評(B) 学習した表現の工夫をいかして、文章をまとめている。(相互評価)
二	- パンフレットを作成する。 2 複数の資料(情報) - 互いのパンフレットを読み合う。	5 総括的な評価 評(B) 複数の情報をうまく組み合わせている。 評(B) 読み手を引き付ける表現を書いている。 評(B) 割り付け・小見出しなどを工夫している。 評(B) 様々な情報を取り入れ、読み手を引きつける表現でパンフレットを作っている。

1

比較

筆者の読みと自分の読みを比較し、それぞれの感じ方や考え方の読みを深めていく



指導のポイント



- ・グループや全体交流の後に、振り返る時間を確保する。
- ・交流での気づきを書くことで学んだ内容を記録する。

ワークシートに記入し、読みを深める前と後と比較することで、内容の捉え方の変化が明らかになる。

学びの変容を残す

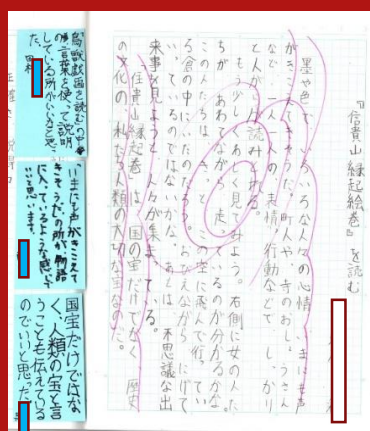
2

複数の資料(情報)

パンフレットに記載する情報を取捨選択し、読み手に伝わりやすい文章を書く



- ・読み手をひきつける書き方、体言止めや呼びかけなど工夫した表現の使い方を意識させる。文章と絵や資料のリンクのさせ方にも着目させる。
- ・読み合うことで、相互評価し自分の読みと比較したり、表現の使い方やよさ、さらに自分の考えをもたせたりする。



たつの市のスマホ講座について

1.スマートフォン体験講座(たつの市公式サイトより)

参加料は無料で、筆記用具が必要です。定員は20名、対象はたつの市在住の65歳の方です。祖父や祖母を誘ってみてはどうですか？

会場	開催日	時間
市民会館	令和4年11月18日(土曜日)	13時30分~15時30分まで
市民会館	令和4年11月22日(金曜日)	13時30分~15時30分まで

2.たつの市近所デジタルマイスター養成講座

マクドナルド龍野店で開催されていて、12月22日、1月24日、2月21日にあります。

宮崎さんたちが開催しています。とてもわかりやすいのでおすすめです。

ぜひ、誘ってください。



iPhone 12

「そうめん」について

たつの市にある播磨乃糸はご存知でしょうか。今回は魅力溢れる播磨乃糸より「そうめん」をまとめてみました。是非、最後までご覧ください。

播磨乃糸、そうめんについて。

製造は組合が選定した熟練製造者に限定されています。贈答用としても最も活用されている品でもあります。この播磨乃糸の自慢は国産100%の小麦のみを使用していることです。練のように細く縮み、湯がいた後の麺のつやもよくもちもちとした食感、そして小麦本来の風味が味わえる逸品なんです。



「そうめん」...播磨乃糸

3

語感・語彙

読み手をひきつけるための書き方の工夫や絵巻物のよさを表す言葉を知る

絵と文章を照らし合わせて考えることで、言葉の意味を感じ取る。
 例:のびのびと・見事な・生き生きと躍動の表現している部分を絵と結び付ける。
 例:実にすばらしい・大したもんだの筆者の表現の工夫を知る。
 例:まるで~のような 比喻表現に着目させる。



4

形成的な評価

筆者の見方と自分の見方と比べたり、筆者の見方について自分の考えをまとめたりしている

評(B) 文章中の表現と絵を組み合わせるとまとめている。



5

総括的な評価

読み手をひきつける表現でパンフレットを作っている

総括的な言語活動(活用):自分の考えが伝わるように表現の工夫を取り入れて、パンフレットを作成する。
 内容面:絵に対して工夫した表現がされていること。
 条件面:読み手がひきつけられるように、学習した表現を使ってまとめること。





1

観点 e：共通点や相違点を意識すること

友だちの本の帯と比較・関連付けをし、考えを深め・広げる

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと

立松和平の「いのちシリーズ」7作品を読み比べ、作者からのメッセージを考える

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること

多様な描写や表現に着目しながら物語への解釈を深める

4

形成的な評価方法・観点

登場人物の関係や情景描写を根拠にして、作者からのメッセージを考えている

5

総括的な評価方法・観点

作者のメッセージについて考えたことを友だちと共有して、自分の考えを広げたり深めたりして本の帯にまとめている

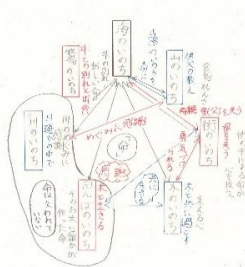
自分の
考えを
もつ
手立て

単元目標「作者からのメッセージを考え、考えたことを本の帯にまとめて伝え合おう」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	・学習の見通しをもつ。 ・場面分けをする。 ・初発の感想を交流する。	
二	・太一と太一に影響を与えた人物について人物関係図にまとめる。 ・山場での太一の心情の変化を考える。また、これまでと瀬の主と別れた後の太一の生き方を比較する。 3 語感・語彙 1 比較	評(B) 登場人物の行動や会話・情景などから人物の心情や生き方について想像を広げて読んだり、物語の山場における中心人物の変化を人物の相互関係や複数の描写から考えたりして、物語を読み深め、作者からのメッセージ（物語が自分に最も強く語りかけてきたこと）について考えている。 評(B) 「海のいのち」を読んで、登場人物の関係や情景描写を根拠にして作者からのメッセージ（物語が最も強く語りかけてきたこと）を本の帯にまとめている。 4 形成的な評価
三	自分が選んだ立松和平の「いのちシリーズ」から1作品を選び、本の帯にまとめ、伝え合う。 2 複数の資料(情報)	評(B) 立松和平の「いのちシリーズ」7作品を読んで、登場人物の関係や情景描写を根拠にして作者からのメッセージ（物語が最も強く語りかけてきたこと）を考え、友だちの考えを共有し、比較・関連付けをすることにより、自分の考えを広げたり深めたりして本の帯にまとめている。 5 総括的な評価

1 比較 友だちの本の帯と比較・関連付けをし、考えを深め・広げる



- ・友だちの本の帯と比較し、様々な視点から検討する学習をする。
- ・最初書いた本の帯を加筆・修正する時間を設定する。

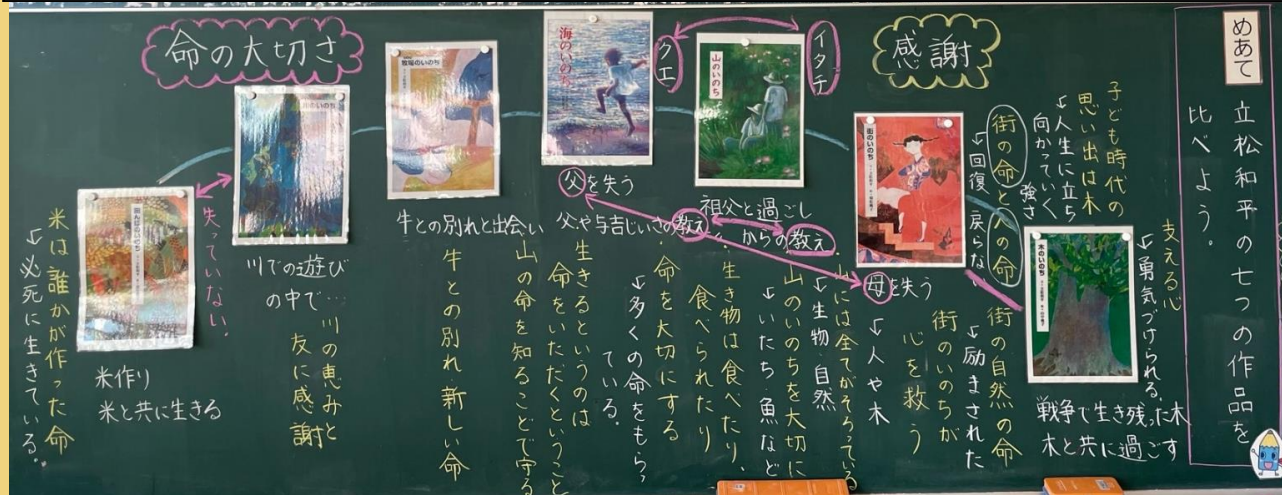
友だちの考えとの共通点や相違点などを見つけ、様々な視点から検討する学習を通して、自分の考えを再構築し、異なる考えを自分の考えにいかすことができるようにする。

様々な視点から検討すること
による自分の考えの再構築

2 複数の資料(情報) 立松和平の「いのちシリーズ」7作品を読み比べ、作者からのメッセージを考える

○くもん出版 「街のいのち」「川のいのち」「田んぼのいのち」絵：横松桃子、「木のいのち」「牧場のいのち」絵：山中桃子

○ポプラ社 「山のいのち」「海のいのち」絵：伊勢英子



立松和平の「いのちシリーズ」7作品を読んで、登場人物の関係や情景描写を根拠にして作者からのメッセージ(物語が最も強く語りかけてきたこと)を考え、友だちの考えを共有し、比較・関連付けをすることにより、自分の考えを広げたり深めたりして本の帯にまとめることができるようにする。どの作品も「命がつながっている」というメッセージが込められていることなどに気付くことができた。

3 語感・語彙 多様な描写や表現に着目しながら物語への解釈を深める

- ・「村一番の漁師」と「一人前の漁師」を比べて考える。
- ・瀬の主の描写「夢」「追い求めてきたまぼろしの魚」「父を破った瀬の主」などの描写と「おとう、ここにおられたのですか」という太一の言葉との差異について考える。

4 形成的な評価 登場人物の関係や情景描写を根拠にして、作者からのメッセージを考えている

- 評(A) 作者からのメッセージを短い言葉でまとめ、それにあつた根拠を具体的な叙述や表現とともに挙げている。
- 評(B) 作者からのメッセージを短い言葉でまとめ、それにあつた根拠を挙げている。

5 総括的な評価 作者のメッセージについて考えたことを友だちと共有して、自分の考えを広げたり深めたりして本の帯にまとめている

総括的な言語活動(活用)：立松和平の「いのちシリーズ」7作品に込められた作者からのメッセージについて友だちの考えを共有し、比較・関連付けをすることにより、自分の考えを広げたり深めたりして本の帯にまとめる。

内容面：友だちの考えを共有し、自分の考えを広げたり深めたりして本の帯にまとめる。
条件面：・作者からのメッセージを短い言葉で表現すること。・根拠となる文章を示すこと。

【中学校】

宝塚市立高司中学校の実践

(第1学年「方言と共通語」)

単元名「方言を使って短文を作ろう」



1

観点 e：共通点や相違点を意識すること
身近な場面での方言と共通語の使い分けを理解する

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
方言の意味を調べ、短文を作る

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること
地域によって異なる方言に注目し、その役割を捉える

4

形成的な評価方法・観点
方言の意味と役割を正しく理解し、短文を作っている

5

総括的な評価方法・観点
方言と共通語の使うべき適切な場面と相手を理解している

自分の
考えを
もつ
手立て

単元目標「方言の役割と意味を正しく理解し、短文を作ることができる」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	- 単元の目標を知り、学習の見通しをもつ。 - 方言と共通語の役割を理解する。 1 比較 - 方言のなりたちを理解する。	評(B) 単元の目標を理解し、進んで学習に取り組もうとしている。 評(B) 場面や話す相手によって方言と共通語が使い分けられていることを理解している。 3 語感・語彙 評(B) 方言の分布から、離れた地に同じ方言があることを理解している。
二	- 方言の意味を調べ、短文を作る。 2 複数の資料(情報) - 作った短文を班やクラスで共有する。	評(B) 方言の意味を正しく理解し、短文を作っている。 4 形成的な評価 評(B) 班の中で積極的に交流を図っている。 評(B) 短文をクラスで共有している。
三	- 方言と共通語の役割と意味を理解して、会話文を作る。 - 作った会話文をクラスで発表する。	評(B) 方言と共通語の役割と意味を正しく理解している。 評(B) 短文をクラスで共有している。 5 総括的な評価

1

比較

身近な場面での方言と共通語の使い分けを理解する

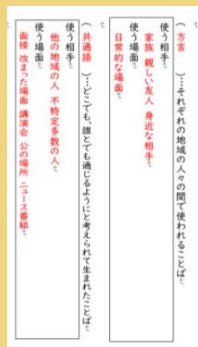
指導のポイント



- ・日常生活で方言と共通語をいつ使っているかを問う。
- ・身近な場面での方言と共通語の使い分けに気付かせる。

- ・方言が使われているテレビアニメを観る。
- ・方言で言い換えられた映画のタイトルを提示する。

方言を使うべき相手と場面を整理



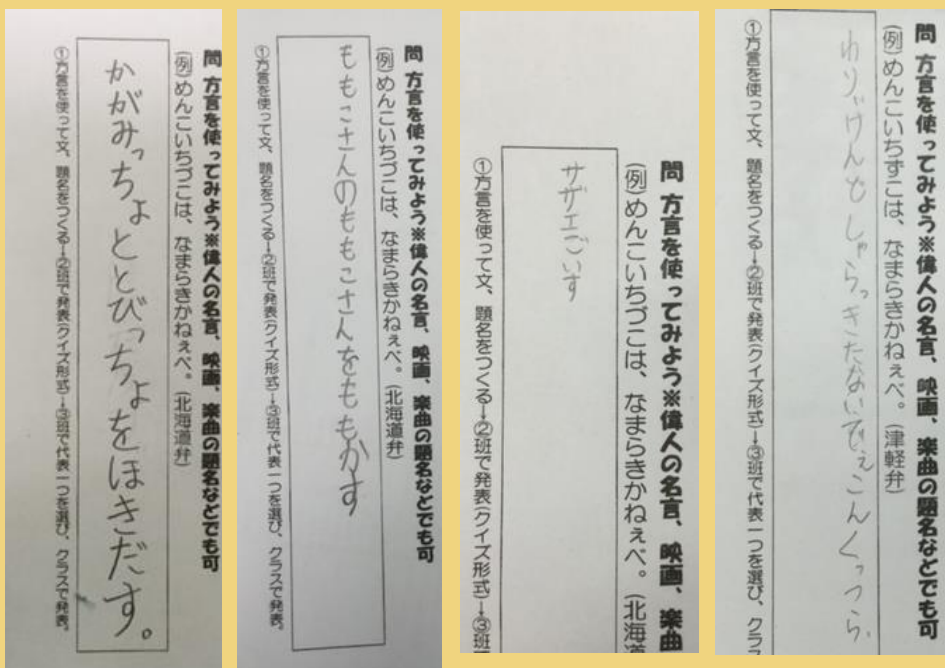
2

複数の資料(情報)

方言の意味を調べ、短文を作る



甲州弁一覧を配布し、方言と共通語のことばの違いを捉える。兵庫県北部と南部の方言の違いや、関西弁の中でも方言が分かれていることにもふれる。



3

語感・語彙

地域によって異なる方言に注目し、その役割を捉える

- ・テレビアニメや映画のタイトルの方言に注目する。
- ・地方によって異なる方言とふれあい、その果たす役割を理解する。
- ・方言の意味を正しく理解し、学ぶ中でことばに関する見識を広げる。



4

形成的な評価

方言の意味と役割を正しく理解し、短文を作っている

評(B) 個々の方言の意味を正しく捉え、適切な短文を作ることができる。



5

総括的な評価

方言と共通語の使うべき適切な場面と相手を理解している

総括的な言語活動(活用): 方言と共通語の役割と意味を理解して、会話文を作る。
 内容面: 方言と共通語の果たす役割と個々の方言の意味について理解していること。
 条件面: 方言と共通語の使うべき場面と相手を整理し、適切に使うこと。



小野市立小野南中学校の実践 (第1学年「根拠を示して説明しよう」)
単元名「筋道を立てて―根拠を示して説明しよう―」



自分の
考えを
もつ
手立て

1

観点 e：共通点や相違点を意識すること
自分の調査結果と既存の調査結果を比較し、分析する

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
レポート作成に必要な項目を示し、自分で確認しながら書く

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること
「事実を伝える表現」と「自分の考えを伝える表現」に注意して表現する

4

形成的な評価方法・観点
学習活動にどのように取り組んだのか文章で記している

5

総括的な評価方法・観点
根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書いている

単元目標「資料を引用してレポートを書くことができる」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	・学習の見通しをもつ。 ・課題を決める。 (インターネット端末を活用する。)	評(B) 自分の興味に基づいて、課題を決めている。 4 形成的な評価
二	・仮説を立て、調査する。 1 比較 ・調査結果を整理し構成を考える。	評(B) 自分の学習活動に見通しをもって取り組もうとしている。 4 形成的な評価
三	2 複数の資料(情報) 3 語感・語彙 ・図表などを引用してレポート作成する。 ・レポートを読み、評価し合い、学習を振り返る。	評(B) 根拠を明確にし、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書いている。 ・考察の部分に自分の考えを書く。 ・資料を引用する。 5 総括的な評価

1 比較 自分の調査結果と既存の調査結果を比較し、分析する



さまざまな既存の調査結果の中から自分の調査にふさわしいものを選ぶ。

1人1台の端末を用いて、自分の調査課題に対する既存の調査結果を探し、自分の調査結果と比較し、分析する。

客観的な根拠の提示

2 複数の資料(情報) レポート作成に必要な項目を示し、自分で確認しながら書く



教科書のレポート例を参考に作成するが、必要な情報が抜けていないか、再度、確認をさせる。また、グループで交流し、互いのレポートを読み合うことで、読み手意識をもって自分の文を読み直す機会を設ける。

根拠を示して説明しよう
3枚目

【提出前に確認しよう】

- 題名は、レポートの内容を明確に表しているか。
- 調査のきっかけと課題を示しているか。
- 自分が立てた仮説を示しているか。
- 調査方法、調査結果をまとめているか。
- アンケート結果など客観的なデータを示しているか。
- 考察(自分の考え)が書けているか。

文末表現

事実:「だ」「である」「している」「が明らかになった」など
考え:「だろう」「と思う」「考える」「だと推測される」など
□ 参考文献や引用の出典元が示されているか。

実際の子どものレポート

7年3組の学習スタイルは?

2022年 10月 27日
7年 3組 第 3 期

1. 課題
中学生は塾やタブレット学習をどのくらい利用している?
2. 仮説
塾に行っている人はよく聞くが、タブレット学習などもいれると、どうだろうか。考え中の人いるだろうか。現在利用している人は3割くらいだと思う。
3. 調査の方法
クラス内で、アンケートを行った。選択肢は、(塾やタブレット学習など)現在利用している、するつもりはない、考え中の3つにした。考え中もいれることで、今後どうなっていくのか、予想することができると思い3つにした。
4. 調査の結果



5. 考察
全国の公立中学校の通塾率は69.3%。7年3組では、通信教育も含めて、現在利用している人は39.5%、利用しないつもりの方は52.6%だった。このことから、7年3組では、塾や通信教育を利用せずに自分なりの勉強方法で学習しているということが考えられる。しかし、考え中の人7.9%いる。それに加え、今後中学校で学習する内容は徐々に難しくなっていく。そのため、今は塾などを利用するつもりがない人も、考え中の人、この先塾や通信教育を利用する可能性が多くなるはずだ。塾や通信教育を利用するにしても、しないにしても、自分なりの学習スタイルを見つけ、勉強していくことが大切だと思う。

6. 参考文献、引用元
jyuku-pita. evidus.com
文部科学省 平成30年度子供の学習費調査

3 語感・語彙 「事実を伝える表現」と「自分の考えを伝える表現」に注意して表現する

事実を伝える表現(「～だ。」「～ている。」など)、自分の考えを伝える表現(「～だろう。」「～と考える。」など)に注意して表現することで、事実と考えを分けて示すことができる。



4 形成的な評価 学習活動にどのように取り組んだのか文章で記している

評(B) 学習活動を具体的に記述している。



5 総括的な評価 根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書いている

総括的な言語活動(活用):根拠を明確にし、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書く。

内容面:考察の部分に自分の考えを書くこと。

条件面:資料を引用すること。





自分の
考えを
もつ
手立て

1 観点 e：共通点や相違点を意識すること
筆者の考えに対して自分の考えが明確になるようにまとめる

2 観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
「主張」「事実」「理由付け」の関係を捉える

3 観点 g：語感や語彙を豊かにすること
言葉を根拠に段落の役割を考えたり、「事実」「主張」を区別したりする

4 形成的な評価方法・観点
「三角ロジック」を使って「主張」「事実」「理由付け」を区別している

5 総括的な評価方法・観点
「三角ロジック」を活用し、筆者の主張に対する自分の考えを明確にまとめている

単元目標「筆者の考えに対して自分の考えをもつことができる」

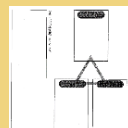
単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	文章の構成と要旨を捉える。 3 語感・語彙	評(B) 配布された九つの段落を切り離したものを、言葉を根拠にしながら段落を並び替えている。 評(B) 自分で並び替えたものをグループで比較し話し合うことで、より言葉の根拠を明確にしながら説明している。 評(B) 「事実」「主張」を区別する手がかりとして「文末表現」に着目している。
二	・「外開き」「内開き」についての筆者の考えを整理する。 2 複数の資料(情報) ・論の展開・構成をふまえて、「外開き」が肯定される過程を捉える。	評(B) 「外開き」が「日本人の生活様式に適した、現実的な解決」と筆者が述べる理由をまとめている。 評(B) 本文から「内開き」についての記述を「主張」「事実」「理由づけ」に整理し、「三角ロジック」の図を使って考えている。 評(B) 本文中から「外開き」についての筆者の主張を支えている事実と理由づけについて「三角ロジック」の形にまとめている。 4 形成的な評価 1・2
三	筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 1 比較	評(B) 筆者の主張に納得しているかどうか、自分の考えが明確になるように考えをまとめている。(考えをまとめる時に「三角ロジック」を活用している。) 評(B) まとめた文章を子ども同士で読み合い、それぞれの考えの共通点・相違点について確認し、自分の考えを深めている。 5 総括的な評価

1 比較

筆者の考えに対して自分の考えが明確になるようにまとめる

- ・筆者の主張に納得できる点とできない点を明確に示す。
- ・自分の考えを明確にまとめるために「三角ロジック」の思考を活用する。
- ・200字でまとめた自分の考えを他人と共有し、他人との共通点・相違点を意識することでより自分の考えを深める。



2 複数の資料(情報)

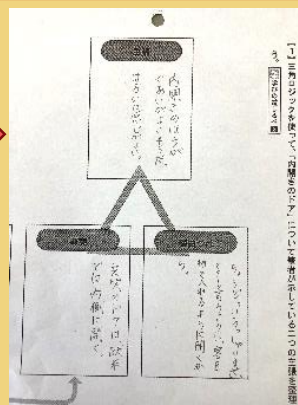
「主張」「事実」「理由付け」の関係を捉える

指導のポイント



- ・「便覧」に掲載されている「説得力を高める工夫」を参考にし「三角ロジック」の方法を用いて「内開き」についての筆者の記述を整理していく。
- ・「事実」と「主張」を区別する方法を用いて明確に読み分けができるように「文末表現」に着目させる。

「三角ロジック」を用いた
明確な読み分け



3 語感・語彙

言葉を根拠に段落の役割を考えたり、「事実」「主張」を区別したりする



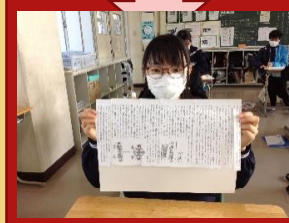
九つの段落を切り離したものを「言葉(キーワード・接続語・指示語・文末表現など)」を頼りにしながら順番に並び替えていく。その中で自然と「事実」「主張」がパズル感覚で認識され言葉の大切さに気付いていく。



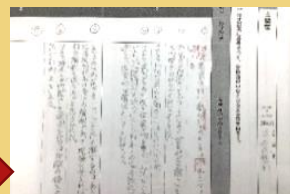
<中心文を見つける方法>

- ①段落の初め終わりに注目する。
- ②「〇〇は、……だ。」と定義する言い方に注目する。
- ③接続語「つまり」「しかし」に続く内容に注目する。

<「事実」と「主張」を区別する方法>
「文末表現」に着目する



段落の中心文をワークシートに並べる視覚化



4 形成的な評価

「三角ロジック」を使って「主張」「事実」「理由付け」を区別している

【評1(B)】「内開き」についての筆者の考えを「三角ロジック」の思考方法を使ってワークシートにまとめることができる。

【評2(B)】「外開き」が肯定される過程を「三角ロジック」の思考方法を使って自分でまとめることができる。

「評1(B)」から「評2(B)」への子どもの変容を評価としてみとめるようにする。



5 総括的な評価

「三角ロジック」を活用し、筆者の主張に対する自分の考えを明確にまとめている

総括的な言語活動(活用):筆者の主張に納得しているかどうかを示し、自分の考えをまとめる。

内容面:まとめた文章を他者と比較することで共通点・相違点をより明確にし、自分の文章を推敲することでより考えを深めること。

条件面:・納得しているかどうかを示す(主張)ときに、「事実」「理由付け」がきちんとされていること。

・文末表現に着目し、きちんと「主張」と「事実」の書き分けをすること。





自分の
考えを
もつ
手立て

1

観点 e：共通点や相違点を意識すること
共通点や相違点を整理して、読み深めるための観点を明確にする

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
ワークシートを活用し、観点ごとに考えを書く

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること
色彩語や象徴物の印象や効果について考えたことを交流する

4

形成的な評価方法・観点
展開や表現の工夫・効果について、自分の考えを書いている

5

総括的な評価方法・観点
色・象徴を用いて、2作品どちらかの展開を踏まえた詩を創作している

単元目標「詩の展開や表現の工夫・効果について考え、詩をリライトできる」

単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	- 単元の課題を知り、学習の見通しをもつ。 - 初読の感想を書き、作品全体の印象について交流する。	評(A) 比較しながら読み、展開や表現の工夫・効果について主題と結び付けて自分の考えを書いている。 評(B) 比較しながら読み、展開や表現の工夫・効果について自分の考えを書いている。 評(C) 展開や表現の工夫・効果についてどちらか一方についての考えを書いている。
二	2作品を比較し、共通点、相違点を整理する。観点ごとに効果を考え、交流する。 1 比較 3 語感・語彙 2 複数の資料(情報)	評(B) 共通点の中から白色と息づかい、また2作品に共通する、色彩語と象徴という表現の工夫・効果の相違点について重点的に考え、本文の記述や交流した内容を踏まえて、自分の考えを書いている。 評(B) 交流を通して想像を広げながら読み、新しく獲得した語彙を書き足している。 4 形成的な評価 評(B) 比較して捉えた展開や表現の工夫・効果に対する自分の考えを、「構成・人物・色・象徴」にふれて書いている。
三	展開や表現の工夫・効果を考えながら、詩を創作する。	評(B) 色・象徴を用いて「初恋」もしくは「レモン哀歌」の展開を踏まえた詩を創作している。 5 総括的な評価

比較

共通点や相違点を整理して、読み深めるための観点を明確にする

[illegible]

- ・何について比較するのかを明確にする。
- ・気付きを大切にするために、個人思考・交流の時間を十分にとる。

共通点・相違点をあげるだけでなく、内容から分類し、比較の観点を明確にすることで、作品の何について比較しているのかを意識できるようにする。

違いを意識したことで捉えられるそれぞれの特徴

複数の資料(情報)

ワークシートを活用し、観点ごとに考えを書く



比較の観点を整理し、それぞれの観点ごとに考えられるようなワークシートを作成する。
4つの観点を1枚に収め、作品を俯瞰できるようにし、作品の構成要素である4つの観点を関連付けながら考えられるようにする。

[illegible][illegible]

語感・語彙

色彩語や象徴物の印象や効果について考えたことを交流する

共通点である白色と息づかいの描写に注目し、印象や効果について考え、交流することで想像を広げる。
相違点である色彩語（「薄紅」「トパズいろ」「青」「山巔」「桜」）の印象や効果について考えるとともに、「林檎」と「レモン」の印象や本文の記述から象徴することについて考え、交流することで語彙を増やす。



4

形成的な評価

展開や表現の工夫・効果について、自分の考えを書いている

評(A) 比較しながら読み、展開や表現の工夫・効果について主題と結び付けて考えを書いている。

評(B) 比較しながら読み、展開や表現の工夫・効果について考えを書いている。

【支援】展開について「だんだんどうなっているか」を問い直したり、効果について自分の体験を想起させたりする。「『初恋』では～だが、『レモン哀歌』では～だ。」というモデル文を提示する。



5

総括的な評価

色・象徴を用いて、2作品どちらかの展開を踏まえた詩を創作している

総括的な言語活動(活用)：色・象徴を用いて「初恋」もしくは「レモン哀歌」の展開を踏まえた詩を創作(リライト)する。

内容面：伝えたい思い（主題）が明確であること。

条件面:①「初恋」もしくは「レモン哀歌」の構成・展開を踏まえること。②「林檎」や「レモン」にかわる象徴を自分で設定すること。③心情を直接表現するのではなく、象徴を通して暗示させること。



新温泉町立夢が丘中学校の実践（第3学年「挨拶一原爆の写真によせて」）
 単元名「詩の言葉を吟味し、言葉から広がるイメージを形にしよう」



1

観点 e：共通点や相違点を意識すること
 作成した朗読資料について意見を交流し合い、内容を改良する

2

観点 h：複数の資料（情報）を踏まえて書くこと
 詩のイメージについて意見を交流し、説得力のある資料を作る

3

観点 g：語感や語彙を豊かにすること
 詩の言葉を正しく理解し、その役割や効果について考える

4

形成的な評価方法・観点
 他者の意見を参考にしながら、朗読用資料の内容を改良している

5

総括的な評価方法・観点
 言葉と画像を繋いで、詩の情景や作者の思いを的確に伝えている

自分の
考えを
もつ
手立て

単元目標「朗読資料の作成を通して、相手に伝えたい内容の価値や魅力を
 伝えることができる」

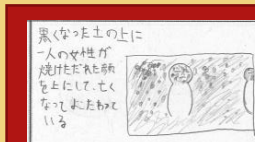
単元計画

次	学習活動	評価規準と評価方法
一	- 詩の内容、その背景にあるものを確認する。 - 表現の工夫や詩の中の言葉に着目し、作者が詩に込めた思いについて読み取る。	評(B) 比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えている。 評(B) 特有の語句の使い方や表現から、作者のものの見方や感じ方を捉えている。 評(B) 詩の表現を様々な角度から吟味し、詩の主題をまとめている。
二	詩の内容を、朗読用資料（プレゼンテーション）にまとめる。 1 比較 2 複数の資料(情報) 3 語感・語彙	評(B) 詩の言葉のイメージを的確に伝えるために、生徒どうしで交流した意見をもとに、集めた画像を整理し、正しく選択することができている。 4 形成的な評価
三	まとめた朗読用資料に対する意見を交流し、内容を改善、確認する。	評(B) 詩の言葉のイメージを的確に伝えるために、集めた画像を整理し、正しく選択することができる。 評(B) 詩の言葉のもつイメージと画像を繋ぎ、詩のイメージや情景、作者の思いを視覚的に伝えている。 5 総括的な評価

1

比較

絵コンテの冒頭部分の表現を吟味し、方向性を決める



詩の冒頭部分は多様なイメージが出てくるため、意見交流の時間を確保して、根拠もふくめた説得力のある意見を取り上げる。

絵コンテに描かれているイラストと、その説明を参考にする。それらをもとに、複数の画像やイラストを資料として提示し、選ばせる。

個の学びから、全体の学びへ移行する共通テーマの設定

2

複数の資料(情報)

詩のイメージについて意見を交流し、説得力のある資料を作る



文字、イラスト、写真等の何を中心に据えて作成すれば、読み手の共感を得やすいのかという視点を大切に、意見を交流する。アイデアは、形にして提示し、さらに意見交流を重ねていく。

案1	意見を受けて
 黒い背景に赤字で第一連の言葉が示されたパターン1	黒い背景に第一連の言葉が示されたパターン2
顔のアップイラストと第四連の言葉が示されたパターン1	がれきを歩く人のイラストと第四連の言葉が示されたパターン2
原爆ドームと懐中時計と第六連の言葉が示されたパターン1	壊れた懐中時計と第六連の言葉が示されたパターン2

3

語感・語彙

詩の言葉を正しく理解し、その役割や効果について考える

- ・詩の表現を様々な角度から吟味し、詩の主題に迫る。
例：第一連の「焼けただれた顔」と第三・四連の「顔」は誰の顔を表現しているかを読み取る。
- ・「顔」「りつぜん」などの特徴的な表現に注目し、内容理解にいかす。



4

形成的な評価

他者の意見を参考にしながら、朗読用資料の内容を改良している

- 評(A) 朗読用資料の内容をどのように変更すべきか、すべきでないかについて根拠とともに発言している。
- 評(B) 朗読用資料に用いた画像や効果について、その意図を説明することができる。



5

総括的な評価

言葉と画像を繋いで、詩の情景や作者の思いを的確に伝えている

総括的な言語活動(活用)：完成した朗読用資料を活用して詩を朗読し、詩の情景や作者の思いが伝わるかを確認する。

- 内容面：朗読時、より良い表現を発見して、気付きをワークシートに記入すること。
- 条件面：絵コンテから朗読資料完成までの、詩のイメージの変化をメモしておくこと。



《指 導 案》

【令和3年度】

I 第3学年「人物カード、変化マップでお話のいいところを伝えよう」

教材名：「サーカスのライオン」 実施校：三田市立ゆりのき台小学校 …… 36

【令和4年度】

II 第2学年「音読劇をしよう」

教材名：「お手紙」 実施校：小野市立市場小学校 …… 42

III 第4学年「考えたことを書き、読み合おう」

教材名：「もしものときにそなえよう」 実施校：豊岡市立五荘小学校 …… 49

三田市立ゆりのき台小学校 第3学年3組 学習指導案

指導者 小玉 直人

1 単元名「人物カード、変化マップでお話のいいところを伝えよう」

教材名「サーカスのライオン」

2 日時

令和3年11月5日（金）5校時（13:40～）

三田市立ゆりのき台小学校 三田市ゆりのき台 4-24

3 単元の指導目標

中心人物の変化に着目し、お話の面白さを伝えることができる。

4 単元の評価規準

知識、技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
人物カードの作成を通して、叙述の意味を書きまとめることができる。 変化マップの作成を通じて、関連付けの思考を働かせることができる。 (理由、類別、比較など)	人物カードを関連付けることで、変化マップを作成できる。 変化マップ作成を通して、人物の変化や行動の意味を考えて記述できる。 「お話の作り」の型から主人公の得たものを考えることができる。	人物カード作りを楽しみ、何度も本文に向かい教材文から学ぼうとする。 変化マップ作成を通じて、自分の考えた情報を再構成する。再構成する活動を通じて、情報の意味を理解することができる。

5 指導にあたって（課題及び指導方法の手立てと工夫）

【児童・生徒の課題について】（児童観）

・場面相互の人物関係に目を向けて、お話を読み進める力をより育てたい。

子どもたちは、一学期「はりねずみと金貨」において「人物カード」（※指導観で詳しく説明）を作成した。「人物カード」で各場面の出来事と人物を整理し読み進める学習を経験している。本文の中で中心人物が主語のところでは、カードがつかれないか検討すること、本文中の気になることを情報として書き抜く経験を経ている。本文の直接表現（「うれしい」「かなしい」等）では、自力でカード化ができている。一方で「〇〇ということは△△と考えられる。」のように中心人物の言動の意味から解釈する場面では、自力でカード化できる児童が約8割にとどまった。交流することで、自力で書くことが出来つつあるため、本単元でも解釈を書く場面を設定し、交流することで情報を解釈する力を定着させたいと考えている。

カード化する学習の中で、場面と場面をつなげて中心人物に関する情報を説明する児童も出てきている。（クラスの約3割）本単元では、一学期の学びをさらに全体に広めていきたいと考えている。

【教材に関して】（教材観）

本教材「サーカスのライオン」は、登場人物が少なく関係性を整理する学習に適している。また物語の一般的な作り方でできている。つまり「欠落した状態の主人公が、設定で描かれる。同時に欠落した状態を回復できる資質能力がある人物であることも描かれる。欠落した状態を回復させるために展開部分では、時間の経過と共にある事件が進行する。山場では、事件が解決され主人公の欠落した状態が回復される。結末部分では、満たされた状態の主人公が描かれる。」というフォームで説明可能な教材である。設定で描かれている中心人物の欠落は、結末の中心人物の死をもって回収される。しかし中心人物の死は、子どもたちの読後感に大きな影響を与えるだろう。「とても悲しい結末」のインパクトに読後感が引きずられる。そして設定で描かれている欠落の回収という視点が弱くなると考えられる。その点を考え「悲しいけれども、いいこともあった話」のように作品を整理しなおすことが、深い学びにつながる。

【自分の考えをもつため】（指導観）

- ・「自分の読み」を可視化することで、友だちの意見との比較・検討（共通点・相違点）ができるようにする。（人物カード）
- ・場面相互の人物関係やその意味を書く（変化マップ）

【a～i の9つの観点】

観点（e）「共通点や相違点を意識すること」

人物カードを作成することで、友だちと考えの交流ができるようにする。一般的に物語は、「欠落した状態の主人公が、設定で描かれる。同時に欠落した状態を回復できる資質能力がある人物であることも描かれる。欠落した状態を回復させるために展開部分では、時間の経過と共にある事件が進行する。山場では、事件が解決され主人公の欠落した状態が回復される。結末部分では、満たされた状態の主人公が描かれる。」という構造を持っている。子どもたちは、そのいずれかの場面に無意識に反応し、読み手としての感想を持つことになる。この「読後感」は、無意識に反応しているため、理由・根拠はあいまいなままであったり、読み飛ばし・誤読があったりする。自分の読みを可視化するために、本実践では「人物カード」として視覚化することを提案する。

「人物カード」は「〇〇なじんざ」と題名（解釈）を書く部分とその理由・根拠を示す部分の二種類の部品で構成している。子どもたちは、主人公じんざの行動描写などから「人物カード」を作成していただく。当初は、本文の表記そのままの【予想される初期のカード】が出てくることが予想される。

【資料①人物カード】

じんざ			
		自分の考え・理由	証拠の一文

【予想される初期のカード】

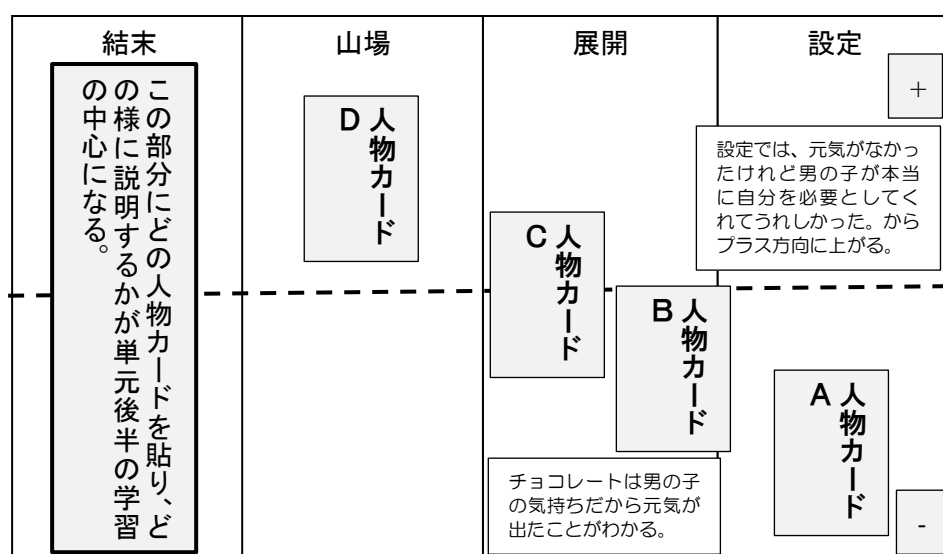
年を取った じんざ			
す。	年取っていたと書いてあるからで	自分の考え・理由	証拠の一文 P128 ライオンのじんざは、年取っていた。

【予想される初期のカード】のような、表面的な読みのカードも認めて作成する。今回大事にしたい学びは、一人一人が感じた読後感を可視化し、情報として明確に整理することである。カード化は、読後感という目に見えないものを、本文の表現や挿絵などをつなげ論理的に読み取らせることにつながる。同時に特に設定部分の中心人物のカードを丁寧に作成させることで、中心人物の欠落を明確にさせたい。具体的には、作成時の机間巡視では、子どもたちに積極的に説明を求めるようにする。特に中心人物のやる気に関する記述をしている児童に声をかけたい。子どもたちは単に「やる気を失っている。」と書いていても、様々な言葉にこだわり中心人物を説明するだろう。「年老いたこと。」「家族と離れ離れであること。」「アフリカで得られない生活。」「繰り返される単調な日々。」のような点は、カードに明確に書いておくように指示する。若さや人間関係、アフリカでの得られなかった生活、失われた時間など、一般的に回復できない物を中心人物が抱えていることをつかんでおくことが、結末での中心人物の死で回収されるものの交流が豊かにする。表面的なカードに情報を書き加

える段階、「〇〇ということは△△」のように解釈を書き記したカードへ質的転換を図るために、各授業において振り返りの時間にカードを修正したり作成したりする時間を確保する。交流での気づきを書くこと、授業後に増やしたいカードを書くことで表面的なカードから脱却させていく。子どもたちは、カードを再度作成する時間に、本文や言葉の意味をより検討するだろう。そうして自分の読みを明確にさせていきたい。

第一次学習計画立案で場面相互の人間関係やその意味を可視化させる手立てとして「変化マップ」を作成することも子どもたちに投げかける。この変化マップは、画用紙を3つ折りにし、初発や人物カード同士の関係を記録していくものである。一学期子どもたちは、「はりねずみと金貨」のお気に入りの場面紹介をこの3つ折り方式で書きまとめている。今回同様の形のものに取り組むことで、どの子も抵抗なく初発や学習過程を記録していけると考える。

【資料②変化マップ】



まず各自で作成した人物カードから変化マップに貼るカードを決定する。各場面で人物カードを関連させて貼りたい場合は、カード間にその理由を書き貼るようにする。カードを貼る際は、変化マップの中心をゼロとして上下に変化をつけていく。(マイナスとプラス) この貼り方で「前の場面は〇〇だが、次の場面では△△。」と場面間をつないだ説明も容易になる。つまり子どもたちは比較・理由の思考を働かせて学習に取り組むことになる。(B 評価)

変化マップの結末の貼られる人物カードは、マイナス方向に偏ると考えられる。教材の特質上主人公の死が大きく影響するからである。子どもたちの発達段階を考えると自力で「死んでしまったがいいこともあった。」と考える児童は少ない。そこで結末部分のプラス・マイナスを検討する学習は、比較の思考に加えて、人物カードを観点に「類別」の思考を働かせることになると考えている。つまり「結末の人物カードは悲しいけれども、設定部分のカードAの〇〇は解決したから、少しはいいことがある。」のような意見が生み出されることを期待している。(A 評価) 結末部分のみ人物カードは、プラス・マイナスの2か所に貼られると子どもたちの読みが深まったと考えたい。

「変化マップ」作成過程で人物カードを関係づけたり、場面と場面を比較したりして「お話の良さ」を語る。情報と情報が複雑に関係し、面白さを構成することが予想され、初発にはなかった喜怒哀楽が入り混じった感想を書き記すことが深く学んだことにつながる。

6 指導計画（全 10 時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	初発の感想を書く。 学習計画を立案する。	- 喜怒哀楽を固定し初発の感想を書かせる。 →100～130 文字程度で理由を書く。 - 気になる場面に関して人物カードを記述することを投げかける。 - 変化マップ作成を投げかけ、お話の面白さを詳しく表現することをゴールとすることを確認する。 「どこを学べば、より深く説明できそうか」と問うことで見通しを持たせる。	- 変化カードの表紙の記述 - A：場面と場面を比較して意味を述べている。 - B：場面に関して、記述を基に意味を述べている。 - C：場面に関して、意味を述べている。 ・「気になる」は主人公の動き 主人公の言葉 全体の流れの中の位置づけの3観点で確認する。
2	最も気になる場面を交流する。 気になる場面から人物カードを書きまとめる。	「気になる」の中身を、主人公の動き、主人公の言葉、全体の流れの中の位置づけでまとめる。 確認した観点を基に、人物カードに記録させる。	1 学期の学びを活かして、基本的な人物カードを作成できている。 気になる場面（設定・展開・山場・結末）の各部分で人物カードを作成しようとしている。
3	設定場面の人物カードを作成する。	『「○○」ということは』というフォーマットで行間を読んでいる児童を取り上げ、モデル化する。	『「○○」ということは』というフォーマットで行間を読んでいる。 ・アフリカ⇨町外れの広場 テントの影の箱の中（場所） ・風のように⇨のそり（動き） ・お父さんやお母さんや兄さんたち⇨じんざ（人間関係）
4	設定場面の人物カードを交流する。 作成した人物カードを修正する。 新しく人物カードを作成する。	じんざの持つ欠落 =老いぼれ =目も白く濁る 等の叙述から 「若さ」「場所」「生き方」「家族との関係」について板書に位置付け確認する。	「老い」「一日中ねている」に表される様子について記述する。 「風のように」に表される様子について記述する。 「夢」に表される様子について記述する。
5	展開場面の人物カードを交流する。	男の子との関わりについて検討する。 「眠らなかった」理由について検討する。	男の子の境遇=自分の境遇 男の子のやさしさ=自分への励まし=自分だけのものの意味 自分の環境外の人から必要とされたことの意味について記述する。
6	山場場面の人物カードを交流する。		

7	結末部分の人物カードを交流する。	じんざの欠落「死」について考えを交流する。 じんざの欠落した状態が回復していることを確認する。	「死」のもつものの中身を記述する。 ・男の子を助けて満足。 ・やり切ることが出来た。 (やる気の回復) 「若さ」「場所」に関して、両方記述している。
8	必要な人物カードを交流し、変化マップに位置付ける。	人物カードの位置を検討し、変化とその意味を記述する。	失われたもの「若さ」「場所」を取り戻したことを記述している。
9	変化マップを交流する。 (本時)	結末部分の人物カードについて理由を話し合わせる。 人物カードを基に話し合わせる。	【ふり返りに期待する言葉】 ・アフリカ ・家族(父・母・兄たち) ・風のように ・走る ・設定と結末を比べると ・設定と山場を比べると ・一番良い時間、よい自分 ・永遠に(ずっと) ★『『名前』によって『個』が位置付くこと』『『じんざ』から『ライオン』に戻ることで上記をとりもどした』のような題名に関わる意見は、問い返し・意見の価値を確認する。
10	変化マップを交流し、自分の考えをまとめる。	再度、本文に向き合い友だちの意見を踏まえて本作品の価値(自分の読み)を確定させる。	

7 本時の目標

結末のじんざの人物カードを根拠に、お話の良さを語ることができる。

8 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と 評価方法等
1 学習課題を確認する。	結末部分の変化マップについて考えよう	
2 変化マップに貼る人物カードを発表する。	「大切」についての意味を次の観点で板書する。 ・関係性「男の子との関係」 ・存在「じんざにとって男の子は・・・」 そこから変化カードのプラスマイナスを考えると「男の子を助けることが出来て満足」という意見が出てくることが予想される。 ○「設定とつなぐとどの様に考えられるか」発問し検討させる。 ○次のキーワードは、板書に色を変えて位置づける。 ○ふり返りの前には「本時の確認」としてキーワードをおさえ直す。 【キーワード】 ・アフリカ ・家族（父・母・兄さんたち） ・金色 ・風のように ・走る ・若さ ・男の子 ・ずっと（変わらず・永遠に…）	山場の場面とつなぐと、男の子との関係性について多くの意見が予想される。 設定とつなぐと、じんざの生き方や存在に関する意見が予想される。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、人物カード・変化マップの関連付けを通じて、結末部分の良さについて記述している。
3 人物カードを変化マップのどの位置に貼るか検討する。	○「キーワードを基に考えるとじんざが取り戻すことが出来たものは何か」発問し検討させる。 【期待する児童の解答】 ・時間を取り戻せたと思う。 ・一番いい自分になったと思う。	【期待するふり返り】 じんざは死んでしまったけれど、アフリカの草原を風のように走っていると思います。理由はP139に空を走り、たちまち…とあるからです。色も金色なので1番いいところに戻ったと思います。
4 振り返りとして変化マップに気づきを書きこむ。	○期待する児童の意見を聞いて自分はどう考えるか人物カードの追加、変化マップになる位置を再検討するよう促す。	

小野市立市場小学校 第2学年 国語科学習指導案

指導者 宮 本 久 子

- 1 単元名 「音読劇をしよう」
 教材名 「お手紙」(アーノルド＝ローベル作 三木 卓訳 光村図書2年)

- 2 日 時 令和4年10月21日(金) 5校時
 場 所 小野市立市場小学校 (小野市市場町816)
 2年2組教室

3 単元の指導目標

【知識及び技能】

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。知(1)ク

【思考・判断・表現】

- 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像することができる。思C(1)エ
- 「読むこと」において、文章を読んで、想像したことを音読劇(音読や動作化)で表現し、共有することができる。思C(1)カ

【学びに向かう態度】

- 場面の様子に着目して登場人物の行動や心情を想像したり、想像したことを音読劇にいかしたりしながら学習課題に意欲的に取り組むことができる。

4 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。知(1)ク	「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を具体的に想像している。思C(1)エ 「読むこと」において、文章を読んで、想像したことを音読劇(音読や動作化)で表現し、共有している。思C(1)カ	場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情を想像したり、想像したことを音読劇にいかしたりしながら、学習課題に意欲的に取り組んでいる。

5 指導にあたって(課題及び指導方法の手立てと工夫)

【自分の考えをもつため】

- 音読劇をするという目的意識をもつことで、自分が表現したい場面や叙述を選び、登場人物の様子や心情を想像できるようにする。
- 音読や動作化などの具体的な活動を通して、叙述から想像できるようにし、自分の考えをもつことができるようにする。

【9つの観点】

観点 (c)「文章の主題をとらえること」

- ・場面と場面を比較することで、登場人物の心情の変化を確認し、がまくんとかえるくんの心のつながりを読み深めていく。

観点 (e)「共通点や相違点を意識すること」

- ・1 場面と 4 場面の登場人物の様子を読み取り、挿絵や叙述を比較することで、共通点や相違点を見つけながら、登場人物の心情の変化に気づき、読みを深めていく。

観点 (g)「語感や語彙を豊かにすること」

- ・音読劇をするために大切な会話文や叙述を根拠にして、文末に着目したり比べ読みをしたりしながら、言葉や叙述から豊かにイメージさせ、語感や語彙を豊かにする。

【児童観】

本学級の児童は、物語文では、「ふきのとう」や「スイミー」の学習をしている。「ふきのとう」の学習では、叙述から想像したことを声の大きさや速さで表現したり、簡単な動きをつけたりして音読や動作化をしながら、読み深めていった。また「スイミー」の学習では、あらすじを確認したり、スイミーの視点から見た海の情景やスイミーの心情を想像したりして物語の世界を読み進めた。そして、学習したことを「スイミーシート」にまとめてポートフォリオ化し、自分のお気に入りの場面を選び、その理由をまとめる活動を通して、自分の考えをもつことができるようにした。これらの学習では、言葉や叙述から楽しみながら豊かに想像を広げることができる児童が多かった。豊かに想像を広げることが難しい児童には、具体的な経験とつなげたり、具体物や写真を提示したりしながら、叙述からイメージできるように支援した。

【教材観】

本教材「お手紙」は、主にながまくんとかえるくんの二人の会話を中心に構成されている物語である。お手紙がもらえず、悲しんだり拗ねたりするがまくんや、そんながまくんにやさしい言葉をかけるかえるくんの様子や心情を会話文から読み取ることができる。そして、この二人の友達どうしの心の交流は、読後にはほのぼのとした優しさを読み手に感じさせる作品である。会話文の多い本教材を、子どもたちは、登場人物に寄り添って読み進めていくと考える。お手紙を待つがまくんの様子や心情や、がまくんのために奔走するかえるくんの様子、一緒にお手紙を待っているときの二人の心情など、会話文から場面ごとにイメージ豊かに想像できると考える。

このような登場人物に寄り添った読みを促し、自分の考えをもつことができるようにするために「音読げきをしよう」の単元を設定した。音読劇をするためには、場面の様子や登場人物の様子・心情を想像し、理解することが求められる。また、音読劇は学習を進めながら、音読や動作化などの具体的な活動を適宜取り入れることができるため、読みを深めるための具体的な手立てともなり、読解活動と表現活動を繋ぐことができる。この単元で取り組む音読劇は、2年生の実態に即して、一部の場面を音読しながら簡単な動きをつけるという程度のものを設定している。児童が、選んだ場面をどのように表現したいかを考え、その理由を明らかにすることに重点を置いて授業を展開していく。

【指導観】

指導に際しては、第一次では、場面や登場人物を確認し、音読をしたり、あらすじを場面ごとにまとめたりしながら、お話の内容を理解させる。あらすじは、場面ごとに確認してあらすじシートにまとめていく。この活動を通して、場面や出来事の順番を確かに行うことができる。そして、音読劇をすることを提示して学習の流れを把握できるようにする。第二次では、まず、音読劇で表現

したい会話文を選び、選んだ理由（想像した登場人物の様子や心情）を台本カード（一人学びカード）に書きまとめ、それを交流する。ここでは、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、さらに想像を豊かにできるようにする。このとき、音読や動作化を取り入れながら、読解と表現を繋いでいきたい。また、1場面と4場面を比較し、対比構造を捉えることで、二人の心情の変化にも気づかせていく（複数資料の活用）。そして、想像を広げたことを新たな台本カードに書き溜めていく。実際の学習では、児童たちが一度本文を読んだ後に行われるため、「登場人物は知らないが、読み手は知っている」という状況生まれる。このような状況では、子どもたちはかえるくんのお手紙の内容や、かたつむりくんの到着が遅れるということを既に知っている。そこで、お話を読み進めるときにも、登場人物に同化する反面、お手紙の内容に関わることやかたつむりくんに依頼するかえるくんのまずさについての発言も予想される。このようなお話のおもしろさや仕組みに気づくことも、この時期の子ども達の発展的な読みと捉え、大事にしていきたい。最後の第三次では、一人学びや交流をして書き溜めた台本カードから自分が最も表現したいものを選び、想像したことを音読劇で表現していく。さらに、完成した音読劇を鑑賞し合うことで、互いの表現のよさについて気づき合う場としたい。

6 指導計画（全12時間 本時8時間目）

次	時	学習活動	教師の支援と指導	評価規準と評価方法（＊）
一	1	○教材の大まかな内容を捉え、学習の見通しをもつ。	・辞書で言葉の確認をしたり、音読をしたりして、大まかな内容を捉えさせる。 ・登場人物や場面の確認をする。	○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 【知】（1）ク （＊音読）
	2	○場面ごとにあらすじをあらすじシートにまとめる。	・場面ごとにあらすじをカードにまとめさせ、シートに貼る活動を通して、登場人物の行動や出来事、場面の順序を捉えることができるようにする。	○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 【思】C（1）イ （＊あらすじシート）
	3			
二	4	○音読劇で表現したい会話文や叙述を選び、選んだ理由や想像したことを台本カードにまとめる。（一人学び）	・登場人物の様子や行動及び心情がわかる会話文や叙述を見つけ、理由や想像したことを明らかにしながら台本カードに書けるようにする。 ・一人学びが難しい児童には、実際に音読させるように音読したかを問いかけ、なぜそのような表現になったかを考えさせることで、登場人物の様子や心情が想像できるようにする。	○会話文や叙述を根拠にして、登場人物の様子や心情を想像している。 【思】C（1）エ （＊台本カード①）
	5	○1場面を交流する。 P12L1～P15L3	・お手紙をもらった時の経験や待っているものが来ない時の待ち遠しさを想起させながら、がまくんの心情に迫ることができるようにする。がまくんの会話文を音読させ、様子や心情をイメージさせると共に、がまくんに寄り添っているかえるくんの様子についても捉えることができるようにする。	○みんな学びを通して、会話文や叙述を根拠にして、登場人物の様子や心情を想像している。 【思】C（1）エ （＊発言・台本カード②）

			・「お手紙なんか」と「お手紙を」、「空っぽさ。」と「空っぽだよ。」を読み比べることで、がまくんの投げやりで拗ねている様子に気づくことができるようにする。 ※毎時間、交流の後には、読み深めたことをふりかえりカードにまとめ、音読劇に活かすことができるようにする。	
	6	○2場面を交流する。 P15L4～P17L2	・かえるくんについての叙述を読み、それを動作化させることで、かえるくんの慌てている様子やがまくんに早く手紙を届けていあげたいという心情を想像できるようにする。	
	7	○3場面を交流する。 P17L3～P20L2	・がまくんとかえるくんの役割読みをさせたり、かえるくんの様子を動作化させたりすることで、対比的な二人の様子を想像できるようにする。	
	8	○4場面を交流する。 【本時】 P20L3～P22L10	・「ああ。」「とても いいお手紙だ。」を音読させたり動作化させたりすることで、がまくんのかえるくんの思いや心情に迫ることができるようにする。 ・1場面と4場面の様子（挿絵）や「ふたりとも～」の叙述を比較させることで、対比的な様子に気づくことができるようにし、二人の様子・心情やその変化を読み深めることができるようにする。（複数資料の活用）	
	9	○5場面を交流する。 P23L1～	・待っている間の二人の会話を考えさせることで、場面の様子を想像できるようにする。	
三	10 11	○自分のお気に入りの場面を選び、音読劇を完成させる。	・一人学びの台本カード①やみんな学びの台本カード②から自分が表現したいものを選ばせ、音読や動作化しながら、音読劇を完成できるようにする。	○会話文や叙述を根拠にして、登場人物の様子や心情を想像している。 【思】C（1）エ （*表現・台本カード）
	12	○「お手紙」音読劇を開く。	・完成した音読劇を交流し、お互いの表現の良さを見つけ、感想を述べ合う。	○互いに考えを共有し、自分の考えを広げている。 【思】C（1）カ （*表現・ワークシート）

7 本時の目標

音読劇で表現したい会話文や叙述を交流したり、1場面と4場面を比較したりしながら、4場面のがまくんとかえるくんのやりとりの様子や、かえるくんの心のこもったお手紙の内容を知ったがまくんの心情を読み深め、台本カードにまとめることができる。【思C】(1)エ

8 本時の展開 (第二次 第8時)

児童の活動	指導上の留意点と支援と評価 (＊)
1 本時の学習課題を確認する。	・前時までの学習を振り返り、本時の課題を提示して学習の見通しをもつことができるようにする。 ・4場面を音読し、学習場面を確認する。
4ばめんのとうじょう人ぶつのようすや気持ちを読みとり、台本カードにまとめよう	
2 4場面では音読劇をするのに、大切にしたい会話文や叙述と、その理由や想像したことを交流しあい、がまくんとかえるくんの様子や心情を読み深める。 (がまくん) ・「きみが。」 ・「お手紙に、なんて書いたの。」 ・「ああ。」 「いいお手紙だ。」 (かえるくん) ・「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 (手紙の内容) ・『親愛なる がまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。』 (場面の比較) ・1場面と4場面の挿絵 ・「ふたりとも、かなしい気分、げんかんの前にこしを下ろしていました。」 ・「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」	○児童の選んだ会話文や叙述を交流させ、読みを深めたり広げたりすることで、がまくんとかえるくんの様子や心情を具体的に想像できるようにする。 ○かえるくんの手紙の内容を音読して、どの叙述に心がこもっているかを考えさせることで、かえるくのがまくんへの思いやりの気持ちを想像できるようにする。 ・親友と友達を比べる。(比較) ・親友を2回使う効果を考える。(反復) ・末文が、「かえるより」ではなく「きみの親友、かえる。」となっている効果を考える。 ○がまくんの「ああ」「いいお手紙だ。」の会話文について、音読したり間の取り方を考えさせたりしながら、手紙の内容やかえるくんの思いを知ったがまくんが感動している様子を具体的に想像できるようにする。 ○1場面と4場面の挿絵や叙述を比較させることで、対比的な様子に気づくことができるようにし、二人の心情の変化を読み深めることができるようにする。(複数資料の活用) ○読み深めた登場人物の様子や心情を想像しながら、音読や動作化させることで、読解と表現を繋ぐことができるようにする。 ＊会話文や叙述を根拠にして、音読や動作化をしながら、自分の考えを形成し、それを伝えることができたか。 ＊友達の意見から、多様な考え方に気づくことができたか。
3 本時の学習を振り返り、想像を広げたことをもとにして、台本カードに自分の考えを書く。	○自分が表現したい会話文や叙述を音読させることで、読解活動(みんな学び)で読み深めたことを表現活動に活かすことができるようにする。 ○板書をもとに音読劇にいかしたい登場人物の様子や心情を書いてまとめることで、本時の学習内容を振り返ることができるようにする。 ＊会話文や叙述を根拠にして、自分の考えを形成することができたか。

9 評価問題

(1) 総括的な評価

(三次10時)

- ・二次で書き溜めた台本カード①②をもとに音読劇で表現したい会話文や叙述を選び、読み深めた登場人物の様子や心情を音読劇で表現することができる。

(三次11時)

- ・友達の音読劇を鑑賞して、さらに想像を広げたことをワークシートにまとめることができる。

(2) 形成的な評価

(二次5～8時)

- ・音読や動作化などの具体的な活動をしたり、場面の比較をしたりして想像した登場人物の様子や心情を、台本カードにまとめることができる。

10 成果と課題

(1) 成果

- ①「音読劇」という目的意識をもつことで、表現したい会話文や叙述を選択する場面を設定することができる。選択するということが自分の考えをもつ基本となる。さらに、音読や動作化などの具体的な活動を取り入れることで、「なぜそのように読んだのか。」「動きからどんなことがわかるか。」など、自分の考えをつくる手立てとなる。読解活動と表現活動を学習の中で繋ぐことができる。
- ②物語の内容を捉えるあらすじシート、自分なりの考えをまとめる台本カード①(一人学び)、みんなの読みをまとめる台本カード②(みんな学び)、表現を共有し考えを広げるワークシートなどを活用することで、自分の考えをもったり、自分の考えを整理したりすることができる。

(2) 課題

- ①音読劇を表現活動の柱にし、授業を展開していく際に、表現の仕方(形式)についての授業展開になる可能性がある。その場合、表面的な読みしかできず、具体的に叙述から想像を広げることが難しくなる。

→・表現の工夫ではなく、登場人物の様子や心情を想像することを中心とした授業展開にする。子ども達とも単元の見通しを持つ際に、約束する。

- ・「どのように読むか。」ではなく、「どんなことを想像して読むか。」を意識して学習を進める。

- ②身体表現や音声表現を評価する際には、児童の表現力が課題になる。また、表現者(児童)が表現したいことが全て鑑賞者(評価者)に伝わるとは限らない。

→・複数者で評価する。(妥当性)

- ・何を表現したいかを評価する。(登場人物の様子・心情) →台本カード(ワークシート)に書く。

③「自分の考えをつくる」ためのワークシートについて、子どもの学びに沿っているか。関連性はあるか。

(1) あらすじカード（確かめ読み）

いちども がげんかんで がまくんにわけを聞く ふたりとも 下ろしている。	(をもらったことがないがまくん)をまっている。)。 (で、げんかんの前にこしを	ばめん 名まえ)
--	--	-----------------

(2) 台本カード①（一人学び）

②がまくんやかまぐんのような気持ち ①ようすやきもちがわかることはや文 音読げきてひょうげんしたいことを考えよう ばめん	二年国語 お手紙 月・日 名前
---	--------------------------

(3) 台本カード②（ふりかえりカード）

②がまくんやかまぐんのような気持ち ①ようすやきもちがわかることはや文 どうじよう人ぶつのようなすや気持ちを読みとり、カードにまとめよう 〇はひらきあひらき 〇はひらきあひらき	二年国語 お手紙 月・日 名前
--	--------------------------

1 単元名「考えたことを書き、読み合おう。」

教材名「もしものときにそなえよう」

2 日時

令和4年11月18日（金）5校時（13:45～）

豊岡市立五荘小学校 豊岡市中陰1番地

3 単元の指導目標

- ・防災に関する語句の量を増やし、文章の中で使うことができる。【知(1)オ】
- ・目的を意識して、経験したことや調べたことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。【思B(1)ア】
- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表すことができる。【思B(1)ウ】
- ・目的に応じて書こうとしている内容が明確になっているか、適切な表現で書けているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。【思B(1)オ】
- ・「根拠」「理由」「主張」を明確にして、自分の考えを書き表そうとしている。【態】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・防災に関する語句の量を増やし、文章の中で使おうとしている。	・目的に応じて、複数の情報を分類・整理し、伝えたい内容を明らかにしている。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表そうとしている。 ・目的に応じて書こうとしている内容が明確になっているか、適切な表現で書けているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけようとしている。	・「根拠」「理由」「主張」を明確にして、自分の考えを書き表そうとしている。

5 指導にあたって（課題及び指導方法の手立てと工夫）

【児童・生徒の課題について】（児童観）

- ・適切な表現と内容で自分の考えをまとめようとする力が弱い

本学級の児童は、書くことに対する苦手意識を持っている。苦手な児童の姿は以下の3つのグループに分類される。

- | |
|---|
| ①書くことが苦手で、あきらめている児童。（表現欲求に課題） |
| ②書くことが決まらず、何を書こうかと悩んでいる児童。（表現内容に課題） |
| ③書くことは決まったが、どのように書けばよいのかで手が止まっている児童。（表現方法に課題） |

児童の「書く力」を育てるためには、「表現欲求」「表現内容」「表現方法」をねらいとした指導が必要となってくる。「表現欲求」を高めるために、児童が一読しただけではわからない、何度も読み返したくなるような「課題」や「発問」を心がけてきた。特に、思考のずれを生み出す課題を設定したことで、相手を説得する必要性が生じ、意欲的に書こうとする児童が少しずつ増えてきている。児童が書いた内容は事前に把握・評価し、授業の流れに沿った意図的な指名で活躍させるとともに、肯定的評価によって、授業に参加しようとする態度を高めてきた。「表現内容」を高めるために、情報を探し出す力を育ててきた。モジュールタイムを中心に、読解スキルに取り組んだことで、初出の文章から情報を探す力を習得しつつある。しかし、目的に応じて、表現内容を吟味する力はまだ成長途中である。「表現方法」については、探し出した情報を目的に応じた適切な表現方法（対比・例示・要約・接続語・文末・引用）で文章にする活動に取り組んできた。引用については、文型として『私は～と考える。（主張）第一に「教科書の引用文」と書いてある。（根拠）なぜなら～だからだ。（理由）』という書き方で学んできている。しかし、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書く力については、個人差が大きい。

子どもたちは、一学期「アップとルーズで伝える」において、「新聞での『アップ』や『ルーズ』のよさを説明するために（目的に応じて）、『新聞記事』と『教科書の要約文』を基に（複数の資料を用いて）、写真の使われ方に対する自分の考えをまとめる。」という学習を経験している。条件として次の3つを示した。①新聞記事から写真を取り上げて「アップ」「ルーズ」を書くこと②教科書の要約文から、ふさわしい文を引用すること③自分の意見を対比的に書くことである。3点を踏まえた正しい文章が書けた児童は27名中17名であった。（A評価）書いた文章を発表するだけでなく、対話的に話し合

い正否を検討していく（評価していく）必要がある。また、後半重視型の授業を心がけ、授業前半で学んだことを活用して、課題に取り組む時間を確保する授業の組み立ても心がける必要を感じた。

【教材に関して】（教材観）

本単元は、近年増えている自然災害への備えを題材にしていることから、児童にとって、調べることや伝えることへの主体性が高まる学習となるだろう。また、「五荘地区の人たちの命を守るために」という目的を持つことで、リーフレットの内容を評価・熟考し、相手を意識した表現にしたいという必要感も生まれやすい。

これまでに説明的文章を読む学習の中で行った、「文章構成をとらえる」「考えとその理由や例との関係を明らかにして読む」ということを、今度は発信者の立場で活用する構造になっている。単元のゴールとして設定した「五荘地区の人たちの命を守るため」には、複数の資料から、目的に応じた情報を探し出す必要がある。また、自分の文章に説得性を持たせるために、資料から適切な表現で引用する必然性も生じるため、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表す力を育むための学習にも適している。

【自分の考えをもつため】（指導観）

- ・教科書の作例の一部を隠して思考を促し、自分の考えを表現する力を高める。
- ・隠した部分に入る内容を選択肢にして思考のずれを生み出し、対話を通して、学ばせたい観定の着を図る。

【a～i の9つの観点】

観点（d）「目的や意図を意識して書くこと」

- ・共通教材（共通目的）での対話を通して、目的や意図を意識して書くことの大切さを学ばせる。
- ・自分が設定した目的について、共通教材での学びを活用し、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表すことができるようにする。

観点（e）「共通点や相違点を意識すること」

- ・思考のずれを生み出す発問によって、対話を促し、共通点や相違点を意識できるようにする。

観点（f）「日常生活や社会生活と結び付けること」

- ・自分たちの住む地区と関連付ける活動を設定することで、児童の目的意識と主体性を高める。

観点（h）「複数の資料（情報）を踏まえて書くこと」

- ・「資料（メモ）」「自分の生活経験」「プラステキスト（本時は防災マップ）」を関連付ける思考を促すことで、複数の情報を踏まえた説得性の高い文章を書くことができるようにする。

観点（g）「語感や語彙を豊かにすること」

- ・日常生活や社会生活と結び付けた目的を設定することで、必要な情報を手に入れるために、主体的に難語句の意味を辞書で調べようとする意識を高める。

【教科書の作例】 p 108、p 109 上段にある北山さんの文章を掲載
（2段落目の2文目と3文目を隠して、**A**とする）

（※著作権上、文章を非掲載）

北山さんの文章

p 109

p 108

A

（作例の隠した部分）

二段落目の2文目と3文目

自分の考えを表現する際に、【教科書の作例】を見ながら、それを視写する形でまとめてしまう児童が多かった。一部の児童にとっては、作例が大きな手助けになっていた反面、本当の表現力がついていないように感じた。実際、時間がたつと作例なしでは書くことができない児童が多かった。それは、作例に合わせて言葉を置き換えることに意識が向かい、そこに深い思考が伴っていなかったからだと考える。また、【教科書の作例】の良い点を見つけ交流したこともあったが、自分が書いた文章ではないので、児童によっては表面的な理解に留まり、深い学びまで至らなかった。次に、作例を隠して提示することで思考を促そうとしたが、それだけでは、一部の児童にとっては難しく、表現欲求が高まらないという課題が見られた。そのことを踏まえ、本実践では、隠して選択肢にするという手立てをとる。

【ワークシート1】

共通の目的を設定し、対話を促す。	めあて	全校生の命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめよう。			
	考え	早めにひなんすることが大切だと思う			
	理由	水があふれた道路は危険だから			
	D	C	B	A	
	「水があふれた道路では、車が水の流れて動けなくなってしまう。水はつた車内でおぼれて死んでしまう事故が発生しています。」 『防災図かん』大空図書	「大雨がふると、山の近くでは土砂災害が起きることがあります。そのため山に近づかないようにすることが大切です。」 『命を守る防災』福音社	「水があふれた道路では、マンホールのフタが外れていることに気づかず、落ちて流されてしまう事故が発生しています。」 『天気的安全ブック』海山図書	「この前、台風が来た時、学校の近くの道路が水につかってしまいました。一年生が水の流れて足をとられて転んで、いのちを見て、とてもあぶなかったなと思いました。」	

促がで、トリーナを可視化し、関連付けの思考を

「A」（作例の隠した部分）に書くなら、A B C Dのどれが一番ふさわしいか」という発問で意見文を書かせる。【ワークシート1】話し合いの場面では、A B C Dの4つを同時に扱うと、混乱を生むので、2項対立にして対話を促す。それぞれの比較によって以下の表現内容・表現方法を学ばせる。AとBの比較によって、「クラスみんなの命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめよう」というめあてにある「調べたことをもとにして」という条件に対応する必要性を学ばせる。BとCの比較によって、考えや理由につながる根拠を引用する必要性を学ばせる。BとDの比較によって、「クラスみんなの命を守るために」という目的に応じた根拠を引用する必要性を学ばせる。次に学びを生かして、五荘地区で考えようと投げかける。この活動では、防災学習で設定した目的「五荘地区の人たちの命を守るために」と、考え「危険を予測して、ひなんすることが大切」に対する根拠と理由を児童に考えさせる。地域社会とつなげて考えさせることで、自分の考えを持ちやすく、本時以降の活動の表現欲求を高めることにもつながると考える。【ワークシート2】

【ワークシート2】

目的として地区を 意識させ、日常生 活や社会生活と結 び付けて思考でき るようにする。	めあて	五荘地区の人たちの命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめよう。				
	②	考え	危険を予測して、ひなんすることが大切だと思う			
	理由	なぜなら、 きけんだから				
	D	C	B	A		
	「高齢者だけではない、家は、ひなんに時間がかかります。近所まで声をかけて、早く早めにひなんすることが大切です。」 『防災図かん』大空図書	「雨が強い、土砂災害にまきこまれてしまう危険も高くなります。山の近くの道は通らないようにしましょう。」 『命を守る防災』福音社	「ひなんはできるだけ川や田んぼからはなれた道路を通ります。水があふれると、道路とのさかいが分からなくなり落ちる危険があります。」 『防災図かん』大空図書	「雨が強い、車などが近づいているのにも気づきにくくなります。車が多い道はさけてひなんしましょう。」 『命を守る防災』福音社	「水があふれた道路では、足が分からず、落ちてアガをする事故がおきています。長い棒や安全を確認しながら歩きましょう。」 『天気的安全ブック』海山図書	

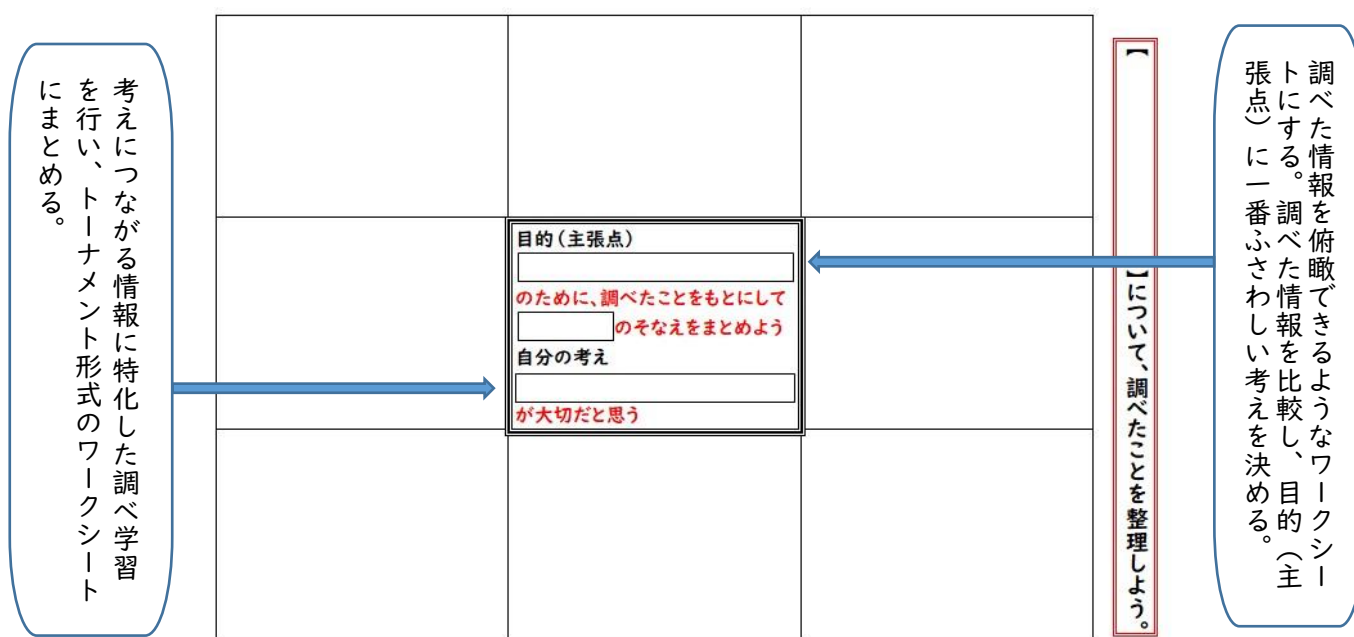
根拠を二つ以上取り入れて、書くよう条件設定する。

複数の情報を提示し、目的に応じた情報を適切に引用できる力を育てる。

複数の資料を関連付けて、自分の考えをもつことができたか評価できるようにする。

また、児童が実際に生活している五荘地区のことなので、共通点や相違点を意識して話し合うことができるだろう。その際、根拠を明確にするため、プラステキストとして地区ごとの防災マップを新たな情報として追加する。防災マップと実際に地区で生活している自分の生活体験を関連付けて、自分の考えを理由と根拠を明確にして表現させる。【ワークシート2】

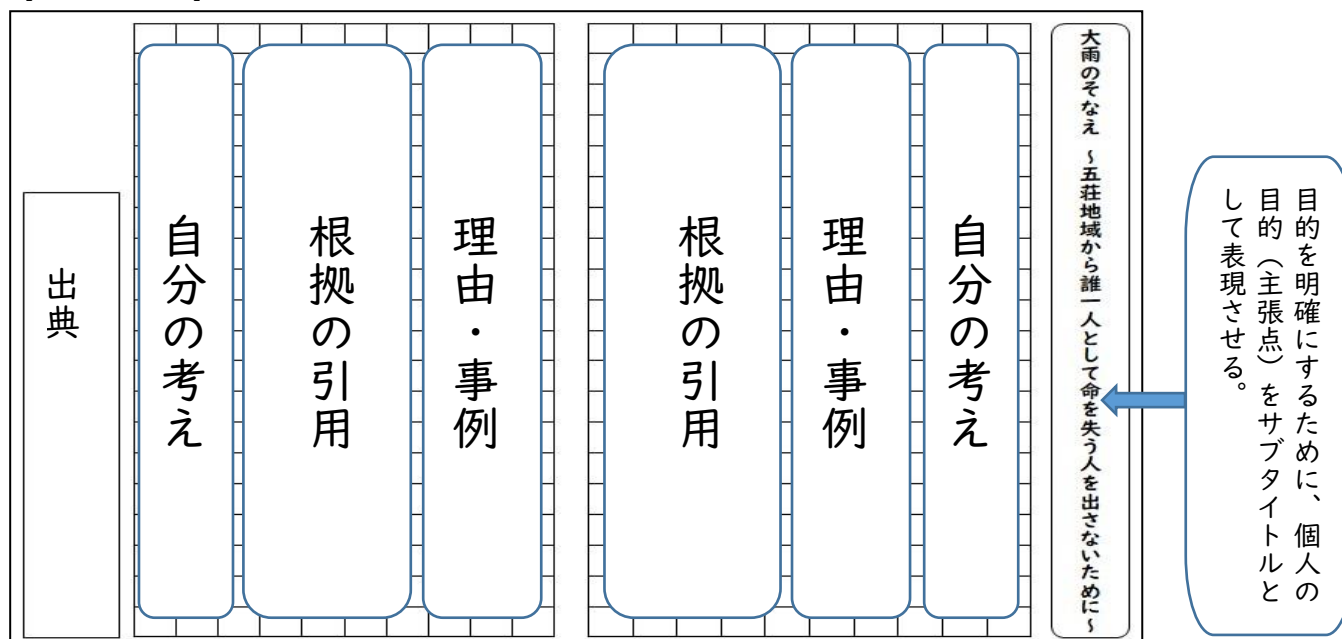
【ワークシート 3】



本時では、共通教材（共通目的）で情報を検討する活動を設定している。単元初めから個人の目的（主張点）を持たせて調べ学習に取り組むことも可能だが、児童個々で目的が異なると、学級全体で対話的に、互いの引用する情報が適切か検討することが難しくなる。今回は、本時以降、個人が目的（主張点）をもって、自分の考えをまとめる際に必要となる観点（目的を意識して書くこと、共通点や相違点を意識すること、日常生活と結び付けること、複数の情報を関連付けて書くこと）を学ぶ時間としたい。

本時以降、自分たちの地区を意識しながら、個人の目的とテーマを決定させる。調べた内容は、【ワークシート3】に整理し、伝えたい考えを明確にする。その後、目的や考え・理由に応じた情報（例えば、高齢者の避難に特化した根拠など）を探し出し、トーナメント形式のワークシートにまとめ、本時で学んだ観点をいかして、地区で情報を吟味させる。単元の終わりには、目的がより明確になるように、自分の目的をサブタイトルとして表現させる。【ワークシート4】

【ワークシート4】



6 指導計画（全12時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	単元のゴールを知らせ、学習の見通しを持たせる。	・児童が書きたくなるようなテーマを映像で紹介し、表現欲求を高める。	【態】単元目標を理解し、進んで学習に取り組もうとしている。
	2	クラスみんなの命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめる。【ワークシート1】	・教科書の作例（北山さんの文章）の一部を隠して、選択肢として提示する。	【態】「根拠」「理由」「主張」を明確にして自分の考えを書き表すことができる。
	3 本 時	五荘地区の人たちの命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめる。（内容重視） 【ワークシート1】 【ワークシート2】	・主体的な学びに向けて、授業後半で地区とつなげて思考させる。 ・対話的な学びに向けて、授業前半で共通教材を使用する。 ・深い学びに向けて、教科書の作例を隠して選択肢にし、意見を交流する。	【知】主語と述語の対応など、文のわかりやすさを意識したり、文章全体の組み立てを意識したりして書いている。 【知】引用の仕方を理解し、使うことができる。
	4	五荘地区の人たちの命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめる。（表現重視）	・前時で書いたワークシートを適切な表現に書き換えさせる。	【思B】相手や目的を意識して書くことを選び、自分のテーマに沿って集めた材料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にしている。
二	5 6	自分の目的とテーマを決定し、情報を探し出す。【ワークシート3】	・目的とテーマを決定する際、前時の学びを活用し、地域の災害情報と関連付けて、決定できるようにする。	【思B】自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、考えがよりよく伝わるように書き表し方を工夫している。
	7	調べた内容を分類・整理して、自分の伝えたいことを明確にする。 【ワークシート2を空欄にしたもの】	・伝えたいことを明らかにするために、トナメント形式のワークシートに「目的」「考え」「理由や事例」「根拠」をまとめ、地区グループで集まり、検討し合う。	【思B】複数の情報を分類・整理して伝えたい内容を明らかにしている。
	8	自分の考えを分かりやすく伝えるために、「初め」「終わり」と対応させて「中」に書く内容を考える。	・教科書の2つの作例を比較し、理由や例のよさや書き方について考える。 ・双括型の文章構成を学び直す。	【思B】下書きを読み直して間違いを正したり、友達の記事にアドバイスをしたりしている。
	9 10 11	自分が選んだテーマに関わる情報を選択し、リーフレットにまとめる。 【ワークシート4】	・完成する前に一度リーフレットを交流し、その後、再度リーフレット作りに取り組ませることで、交流で学んだ新しい見方や考え方を内容や表現に活かしたいという意欲を高める。	【態度】学習の見通しをもって、調べたことを基に自分の考えを書き、伝え合おうとしている。
	12	自分が選んだテーマのリーフレットを読み合い、評価する。【ワークシート4】	・リーフレットについて、内容と表現の二つの視点で相互評価し、リーフレットを完成させる。 相互評価の視点 【表現内容】 複数の情報を関連付けて、自分の主張点にふさわしい内容が書けているか。 【表現方法】 「考え」「理由」「根拠」のつながりは適切か（書き表し方は適切か）	【思B】考えと理由や事例との関係が明確になっているかなどについて、感想や意見を伝え合うとともに、自分の文章のよいところを見つけている。 【知】考えとそれを支える理由や事例の関係について理解している。 【態度】進んで友達と文章を読みあい、感想や意見を伝えようとしている。 ※クラスの防災ブックを作るために、メモ・防災マップ・自分の生活経験を基に、自分の考えとそれを支える理由と事例との関係を明確にして、自分が選んだテーマのそなえを書き表すことができる。

7 本時の目標

全校生（五荘地区の人たち）の命を守るために、必要な情報を基に、考えとそれを支える理由や根拠の関係を明確にして、大雨のそなえをまとめることができる。

8 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1 めあてを確認する。	○教科書の作例の一部を隠して思考を促し、自分の考えを表現する力を高める。	
全校生（五荘地区の人たち）の命を守るために、調べたことをもとにして、大雨のそなえをまとめよう。		
2 自分の考えを発表する。	○選択肢にして提示することで、自分の考えを持ちやすくする。 ○必要に応じて、「どうして（理由）」「どこから（根拠）」「だから（主張）」と問い返し、論理的な思考を促す。	自分の意見を「主張」「根拠」「理由」を明確にして伝えている。
3 話題を焦点化して話し合う。	○二項対立にして、対話を促す。 ○比較の思考を促すことによって、以下の表現内容と表現方法を学ばせる。	
	AとBの比較…【条件に応じた根拠を引用】 BとCの比較…【考えや理由につながる根拠を引用】 BとDの比較…【目的に合った根拠を引用】	
4 五荘地区の大雨のそなえについて交流する。	○自分の地区にふさわしい理由と根拠を検討することで、共通点や相違点を意識できるようにする。 ○地区の防災マップを資料として追加し、関連付けの思考を促す。	適切な表現内容で自分の考えをまとめている。
5 五荘地区の大雨のそなえをまとめる。（ふりかえり）	○表現内容と表現方法を意識して書かせる。 ○地区で適切な表現内容㊦と表現方法㊧になっているか確かめさせる。 ㊦…㊠と㊡を関連付けた自分たちの地区にふさわしい理由が書けているか。 ㊧…考えと理由と根拠のつながりは正しいか。	※全校生（五荘地区の人たち）の命を守るために、必要な情報を基に、考えとそれを支える理由や根拠の関係を明確にして、大雨のそなえを書き表すことができる。

9 評価問題

（1）総括的な評価（第12時）

自分の設定した目的に応じて、メモ・生活経験・プラステキスト（防災マップ等）を関連付け、考えとそれを支える理由と事例との関係を明確にして、自分が選んだテーマのそなえを書き表すことができる。

（2）形成的な評価（第3時）

五荘地区の人たちの命を守るために、必要な情報を基に、考えとそれを支える理由や根拠の関係を明確にして、大雨のそなえを書き表すことができる。

例 1



《コ ラ ム》

Ⅳ 教科等横断的な視点を取り入れた取組の紹介

(令和3年度全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイントから再掲載)

..... 57

教科等横断的な視点を取り入れた取組の紹介
(令和3年度全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイントから再掲載)

1 小学校国語 単元名「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」(第5学年 光村図書)

- (1) ねらい 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることを通して、自分の表現にいかすことができる。
- (2) 学習の流れ
 - 第1時: 単元の見通しをもつ
 - 第2～6時: 教材「固有種が教えてくれること」で図表と文章の対応を読み取り、資料の効果や論の進め方について考える
 - 第7～10時: 教材「グラフや表を用いて書こう」で図表を用いて意見文を書く(本時)
 - 第11時: 書いた意見文を読み合う
- (3) 学習の系統

第4学年
目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する

第5学年【読むこと】
目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして読む

第5学年【書くこと】
引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫する

学びの見通しをもつ場面

○追究したくなるような課題の工夫

- ☑ 教科書掲載の資料を用いて教員が書いた意見文(前単元「固有種が教えてくれること」の学習が生かされていないもの)を読み、課題を設定する

資料を使っているから分かりやすいんじゃないかな?

資料と文章を結び付けて考えていない

資料を見てくたさい。携帯電話をもっている人はとても多くなっています。このことからわかるように、携帯電話をもっている人が増える、人も増えるように思います。このようなことから、携帯電話は便利なものですが、その使い方をよく考える必要があると思います。

資料の使い方についての捉え方のずれ

携帯電話の使い方、スマートフォンは音楽を聴いたり、映画を鑑賞したりすることが出来ます。それはとてもいいことですが、電車やバスの中で、イヤホンもせず、大音量で楽しんでいる人もいます。それらは、人の迷惑にならないように、使うべきだと思います。

携帯電話を持っている人は自分勝手なんて、この資料から分かるの?

資料と文章を結び付けて考えている

ポイント

説得力のない意見文について、その理由を考えさせた際に、資料の捉え方についてのずれを引き出すことで児童に問いをもたせ、課題を設定する。

課題: 資料を効果的に使って、説得力のある意見文にするには、どのような書き方をすればいいのだろう。

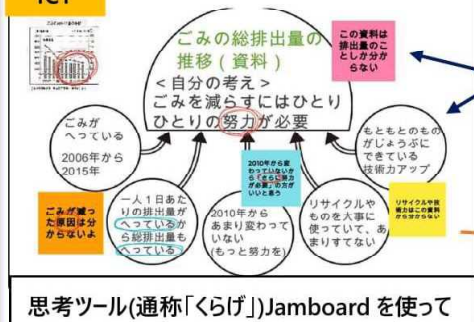
考えを広げ深める場面

○学び合いにより考えの自己調整を図る工夫

- ☑ タブレット機能を活用し、伝えたいことと資料とが適切に結び付くかを考える

タブレット活用の際は、目的や意図を明確にして、適切に活用できるように指導する。

ICT



よりよい社会にするために、どんなことに取り組んだらいいかな。自分でテーマを決めて資料を選ぼう。

○: 自分の考えの根拠 資料から読み取れること
□: 付せて相互評価

資料の効果と自分の考えの関連付け方を理解

友達の意見を参考にリサイクルについての資料を図書室から探して追加して、考えをまとめようと思いました。

学び合いで変容を自覚できる工夫

【考えを裏付ける資料かどうかの検討】

「資料が考えの根拠になっているか」について、キーワードを囲むなどして、確認し合う。そして、どのキーワードを活用して書き直したかどうかを確認する。

ポイント

思考ツールをもとに友達と相互評価し合うことで、資料の効果について新たな気づき生まれ、資料と関連付けた自分の考えのまとめ方を修正できるようにする。

教科等横断的な視点を取り入れた取組の紹介

(令和3年度全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイントから再掲載)

学びを振り返り、次への学びにつなげる場面

○変容に気づき、学ぶ意義を感じられる工夫

☑ 視点を明らかにして何を学び、どう学んできたのかについて、自分の言葉で振り返る



学習を通して、3つの視点で振り返りましょう。

<振り返りのポイント>

- ①新たに気付いたこと
- ②資料の効果について、学習の初めと終わりでの考えの変化
- ③まだ分からないこと・もっと調べてみたいこと

【振り返り例】

①で、資料と文章の内容が合っこそ、言いたいことが伝わるのだと新たに分かりました。

②で最初は資料があるとすごい意見文が書けた気がしていたけど、自分の考えに一致しているかを考えないと説得力のある文章にならないと分かりました。

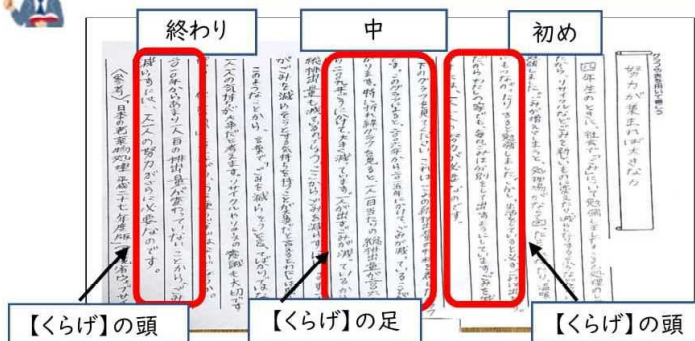
③では… 学んだことで、自分の考えがより良くなったと感じた児童

「書く」学習へ

☑ 今までの学習を生かし、意見文を書く



どんなことに気をつけて意見文を書けばいいか、今までの学習をもとに確認しましょう。



【くらげ】の頭が「初め」と「終わり」にきて、足の部分が「中」になるといいね。

構成は…

意見文の条件は、「考えにあった効果的な資料を用いる」だったよね！

資料は…

ポイント 【読むこと】で学習したことを【書くこと】の学習へとつなげ、学んだ知識を活用する場面を一人一人に設定することで、学ぶ意義をより感じられるようにする。

学習を家庭や地域とつなげる場面 〈特別活動〉

☑ 資料を用いて、学校行事のお知らせを作成する



もうすぐ音楽会ですね。〇〇小学校の音楽会に、たくさんの方に来ていただきたいですね。どんなお知らせにしたらいいですか？



お知らせに資料を載せるといいね。どんな資料を載せるといいのかな。



みんなが音楽会で何が一番見せ場だと思っているかアンケートをとって、それを載せるのはどうかな。



どんなことをがんばってきたかも知らせたいね。

ポイント 資料を用いたり、必要な事柄を引用したりして文章を書くことの良さを生活や学校行事、地域行事と関連付けて学習内容を見直すとともに、様々な場面で活用していこうとする意欲付けになるようにする。

〇〇小学校 音楽会

校区のみなさんが、楽しみにしている音楽会がもうすぐあります。今年もがんばって練習してきました。

まず、この資料をみてください。これは、「みんなが音楽会で一番見せ場だと思っていること」のアンケート結果です。

この資料からは、心をつなげて合奏や合唱していると

ころが一番の見せ場だと思っている人が多いことが分かります。その理由は、「みんなで作る音楽会がいちばんいいから」です。

わたしたちは、△△というところががんばっていました……

日時：〇月〇日 △時～
場所：〇〇小学校体育館

【家庭より】伝えたいことがグラフでよく分かるお知らせですね。



2 中学校国語 単元名「根拠を明確にして考えを述べる」(第1学年 三省堂)

- (1) ねらい 読書の良さについて情報を収集・整理し、それを活用して読み手に伝わるように書くことができる。
(2) 学習の流れ
第1時:情報整理の方法 第2時:情報収集と整理 第3時:収集した情報をもとに意見文を書く
(3) 学習の系統

小学校第5学年及び第6学年
情報と情報との関係付けの仕
方を理解する

第1学年
比較や分類などの情報の整理
の仕方、引用の仕方や出典の
示し方を理解する

小学校第5学年及び第6学年
事実と感想、意見とを区別して、
自分の考えが伝わるように書き
表し方を工夫する

第1学年
根拠を明確にしながら、自分の
考えが伝わるように工夫する

学びの見通しをもつ場面

○追究したくなるような課題の工夫

- ☑ 来年度の入学生に読書の良さについて伝える文章を書くために必要な情報を収集する

課題:中学校に入学したばかりの後輩に、読書の良さを伝えるためには、どのような文章を書けばいいのだろう。

※本単元は、中学校1年生の3学期に行う。作成した文章の中からうまくできているものを選び、次年度の新入生オリエンティング等で使用することを伝えて、生徒の学習意欲の喚起を図る。

前時までに、比較や分類といった情報収集の方法について確認し、学校図書館でテーマに関連する書籍を借りる。
ここでは、タブレットを活用し、インターネットから意見の根拠となる情報を収集する。

【学習の流れ】

- ①読書の良さの確認 ②情報収集 ③意見と根拠で文章を整理
④グループ交流と推敲 ⑤清書



中学校に入学したばかりの後輩に読書の良さを伝えるために、どのような資料が必要ですか？



僕は物語を読むのが楽しいから、本が好き。それに国語の力が上がる気がするな。そんなデータはないかな？



目的意識を明確にもたせた上で、どのような資料が必要になってくるのかを考えさせ、自分たちでその意見の根拠になる情報を収集させることで、主体性を引き出すようにする。

考えを広げ深める場面

○学び合いにより考えの自己調整を図る工夫

- ☑ 読み手を意識して、情報を整理しながら、グループで書き方を推敲する



読書が勉強の力につながることを伝えるときに正答率を使おうと思うんだけど、うまく伝わるかな・・・



読み手の新入生にとっては、正答率って難しくないかな？問題が解けた人の割合はどう？



インターネットの情報を引用するだけでなく、分かりやすいように自分の言葉で言い換えて説明するといいいの。その視点でもう一度見直してみるよ！

読み手による表現方法の工夫を理解

学び合いで変容を
自覚できる工夫

話し合った後、自分の考えを再構成する時間を設定し、一人では気付かなかったことに気付いた実感をもたせる。



グループ交流がただの感想の出し合いにならないために、「読み手」を意識させ推敲させることで、文章を客観的な視点で見直しながら、それぞれの表現の仕方を改善できるようにする。

教科等横断的な視点を取り入れた取組の紹介
(令和3年度全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイントから再掲載)

学びを振り返り、次への学びにつなげる場面

○変容に気づき、学ぶ意義を感じられる工夫

- ☑ 考えを述べるポイントに沿って、自分の文章を見直し、学びを振り返る

〈根拠を明確にして、考えを述べるポイント〉

①情報を比較・分類し精査する ②意見の根拠を明確にする ③読み手に伝わる文章の書き方にする



〈考えを述べるポイント〉をもとに、書いた文章を見直し、はじめと比べて、自己評価しましょう。

自分のできるようになったこと
及び課題が分かり、次への学習の
目標が明確になった生徒

①については、自分の意見にあった資料をインターネットを使ってたくさんの中から絞ることができたと思います。②については、意見と資料とのつながりを考えることが難しかったけど、友達と話し合うことで、資料のどこに着目して考えとつなげていくのが分かりました。③については、相手によって表現の仕方を変えることがまだできていないと思います。

だから、次は、小学生向け、大人向けなど目的意識を変えながら意見文を書く練習をしたいと考えています。



ポイント

〈考えを述べるポイント〉を基に、自分の文章を見直し、相互評価をさせることで、互いの文章の良さを認め合い、次への学習意欲を喚起する。



この勉強を何か学校の活動に生かすことはできないかな？

あ！学校の図書館で全校生向けに、ポップを作るのはどうかな？伝えたい相手がはっきりしているので書けそう！



「情報」の収集と整理、引用の仕方について、さらにポップ作成という「書く」言語活動をつなげ、理解を深める

学習を家庭や地域とつなげる場面 〈特別活動〉

- ☑ 本のポップを作成し、学校の図書室や地域の図書館に展示する

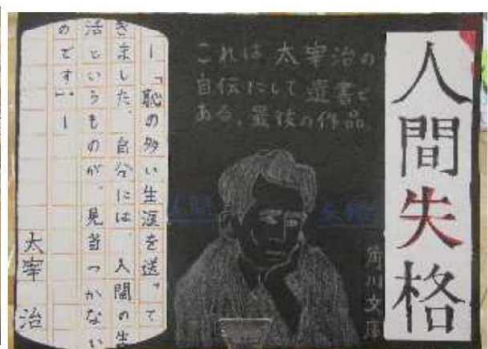


国語で学習した内容を活用して、ポップを作成し、図書室に展示しましょう。どんなことに気を付けてポップを作成したらいいですか？

誰に読んでもらいたいのかという相手意識が大切だったよね。
私は、文豪の作品に触れていない人たちに、そのような本を読んでもらいたいから、そのはじめとして、有名な作品の書き出しを紹介しよう。



学校教育活動の様々な場面で読書を充実させる取組を進めます。例えば、図書委員会を中心として、読書会やブックトークを行ったり、総合的な学習の時間における情報収集に図書室を活用したりすることが考えられます。



ポイント

保護者による読み聞かせや、文化的な行事としてのビブリオバトル、あるいは地域の書店等と協働した取組を企画するなどして、学校が家庭や地域の連携の要となって生徒の読書活動の充実を図るようにする。

あわせてご活用下さい！

令和3(2021)年度学力向上指導資料にも 授業改善のポイントが掲載されています！

【R3 全国学力・学習状況調査で

特に課題と考えられる項目】

- 小学校国語 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」
- 中学校国語 「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと」



令和4(2022)年度学力向上指導資料にも 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善のポイントが掲載されています！

【「学びのデジタルガイド」&「デジタルガイドプラス」】

- 教科特有の「見方・考え方」を働かせる授業改善の指導事例集(「**学びのデジタルガイド**」)を作成しました。
- 「学びのデジタルガイド」で取り上げた事例の学びと日常生活を結びつける子ども向けコーナー(「**デジタルガイドプラス**」)を作成しました。



きめ細かな見取りから 確かな学力を育む授業 改善へ



子どもの「わかった」を 大切に授業改善の ポイント



「『活用・表現力』を高 めるための授業改善リ ーフレット」



子どものつまずきに 応じた系統的な授業 改善は、こちらを！



<全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた課題克服研究授業改善チーム>

<小学校>

三田市立ゆりのき台小学校
小野市立市場小学校
たつの市立小宅小学校
豊岡市立五荘小学校
丹波篠山市立岡野小学校
南あわじ市立榎列小学校

小玉 直人
宮本 久子
柿本 亜津子
田原 昭高
御川 歩美
石田 直栄

<中学校>

宝塚市立高司中学校
小野市立小野南中学校
姫路市立山陽中学校
新温泉町立夢が丘中学校
洲本市立由良中学校

畠山 勇馬
友定 美紀
天野 雅子
伊奈 史雄
井高 聡

監修 吉川 芳則(兵庫教育大学大学院 教授)

編集発行 兵庫県教育委員会事務局義務教育課 (令和5(2023)年3月)

連絡先 〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 Tel.078-341-7711 (代)

兵庫県教育委員会義務教育課



04 教 T1-013A4